

# 図書館要覧

2015

岐阜市立図書館

# 目 次

1. はじめに .....	1
2. 図書館の運営方針 .....	2
(1) 図書館の理念 .....	2
(2) 事業全体の考え方 .....	3
3. 学校連携室 .....	4
4. 図書館事業 .....	7
(1) 子どもの育成 .....	7
(2) 郷土の魅力 .....	14
(3) 本がっなぐひと・まち .....	18
(4) ビジネス支援 .....	24
(5) 図書館の利用促進事業 .....	29
(6) 図書館ボランティア活動 .....	38
(7) 中央館展示リスト .....	39
(8) 今後に向けて .....	40
5. 広 報 .....	41
(1) 報道トピックス .....	41
6. 統計・データ .....	42
(1) 資料統計 .....	42
(2) 利用統計 .....	47
(3) その他 .....	52
(4) 市勢及び図書館指数 .....	52
(5) 図書館の概要 .....	53
(6) 図書館の条例及び規則等 .....	57



## 1. はじめに

---

平成27年3月に、長年にわたり多くの市民に愛され、利用されてきた旧本館を閉館し、人のつながりや資料蔵書を受け継ぎ、これを活かしながら、同年7月より、「知の拠点」としての未来へのさらなる発展を目指して、ぎふメディアコスモスに中央図書館が開館しました。

この中央図書館が開館することで、乳幼児を含む子どもから子育て中の20代、30代の若い世代の潜在利用者を掘り起こすことで、中心市街地に新たな人の対流を起こすという狙いのもとに、組織改編、職員のモチベーション向上を図りつつ、これまでにはなかった様々なソフト事業を投入展開してまいりました。そういう意味では実験的な色合いの濃い一年であったかと思っております。

図書館は本の貸し出しと返却だけを仕事としている訳ではありません。これからの図書館のあり方を思えば、利用者サービスやホスピタリティ、つまり市民の皆様とのコミュニケーションをより円滑なものにしていくことを明確に打ち出し、市民の皆様とともに「屋根の付いた公園」と形容すべき新たな図書館像を実現してまいりたいと考えております。

みんなの森 んぎふメディアコスモス。この象徴的なフレーズにあるみんなの森のみんなとは、顔の見えない抽象的な記号のことではありません。ここにやって来るひとりひとりのあなたであり、私のことであると思いつつ、たくさんの方の顔を思い浮かべながら一年間の報告書にまとめました。ご一読いただければ幸いです。

これからも皆さまのご支援、ご鞭撻をどうぞよろしくお願いいたします。

岐阜市立図書館  
館長 吉 成 信 夫



みんなの森  
GIFU MEDIA COSMOS

## 2. 図書館の運営方針

---

### (1) 図書館の理念

#### ●岐阜市立図書館の目指すべき姿

岐阜市立図書館は、中央図書館（ぎふメディアコスモス）を中核として、分館と5図書室で構成されています。

2015年7月18日より、複合施設ぎふメディアコスモスの開館を契機に、全館を、ひとと情報面から有機的に結び合い、地域の特性やニーズにあわせたそれぞれの館らしさを発信すること、つまり全体が銀河星団のように輝きを増すような、相互にネットワークをゆるやかに結びあい、利用者ニーズに応える、よりよいサービスの提供に努めています。

#### ●中央図書館の基本的な考え方

市民に寄り添う、身近な「滞在型の図書館」を目指しています。

- ・ここにいることが気持ちいい
- ・ここにずっと居たくなる
- ・何度でも来たくなる

#### ●どのような図書館でありたいのか

次世代型図書館＝屋根の付いた公園のような図書館

複合施設としての特性を活かし、様々な世代の人々が出会い、交差する。市民が主体的に参画できる場と機会づくりを多発させ、人に付帯する生活情報を多面的に提供する図書館でありたいと考えます。

#### ●メッセージ

子どもの声は未来の声

私たちの図書館では、本を通じて子どもたちの豊かな未来へとつながる道を応援したいと考えています。就学前のお子さまから、小中学、高校に至るまで、長い子どもたちの育ちを末永く見守る場所でありたいと思うのです。

だから、私たちは館内で小さなお子さまが少しざわざわしていたとしても、微笑ましく親御さんたちといっしょに見守ります。

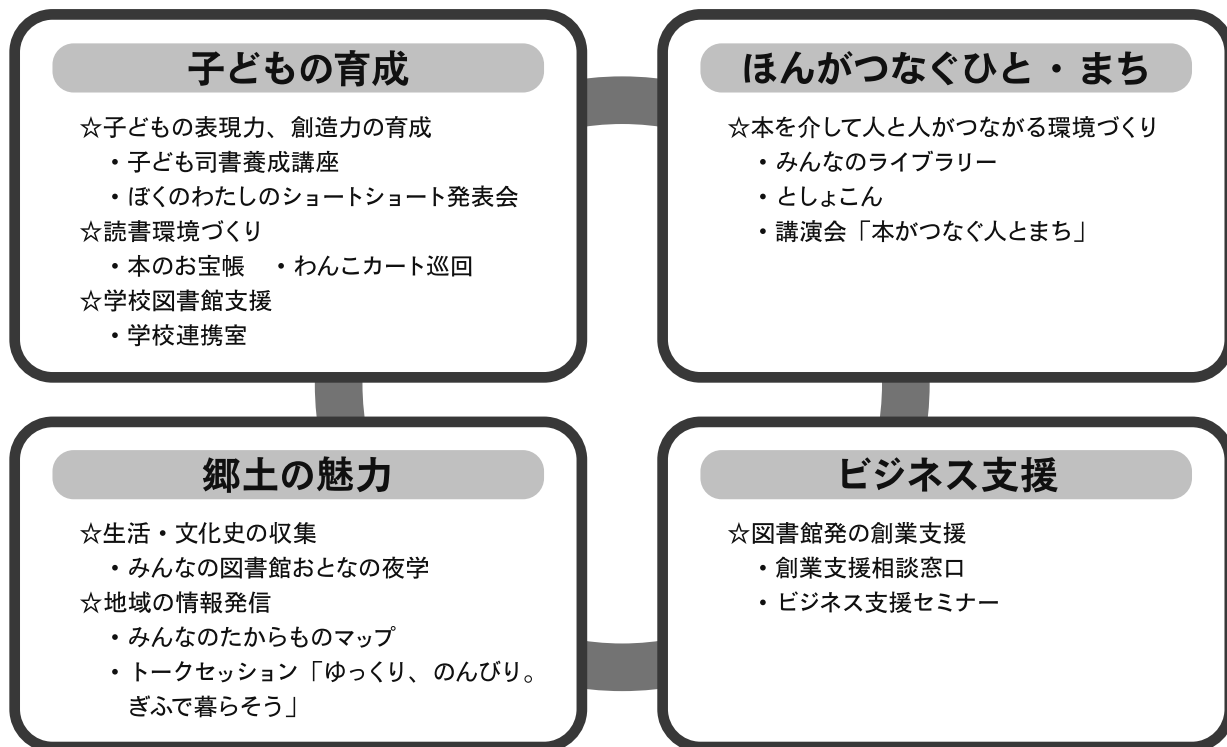
来館されたみなさまも、どうぞそのような考え方をもった図書館だとしてご理解いただければ有り難いです。

そして、小さなお子さまのお父さま、お母さまにもお願いです。

ここは公共の場所です。遊び場、運動場ではありませんので、公共の場所でのマナーをお子さまに教えていただく場としてもご活用いただければ幸いです。

みんなでお互い様の気持ちを持ち寄る場所にしていきましょう。

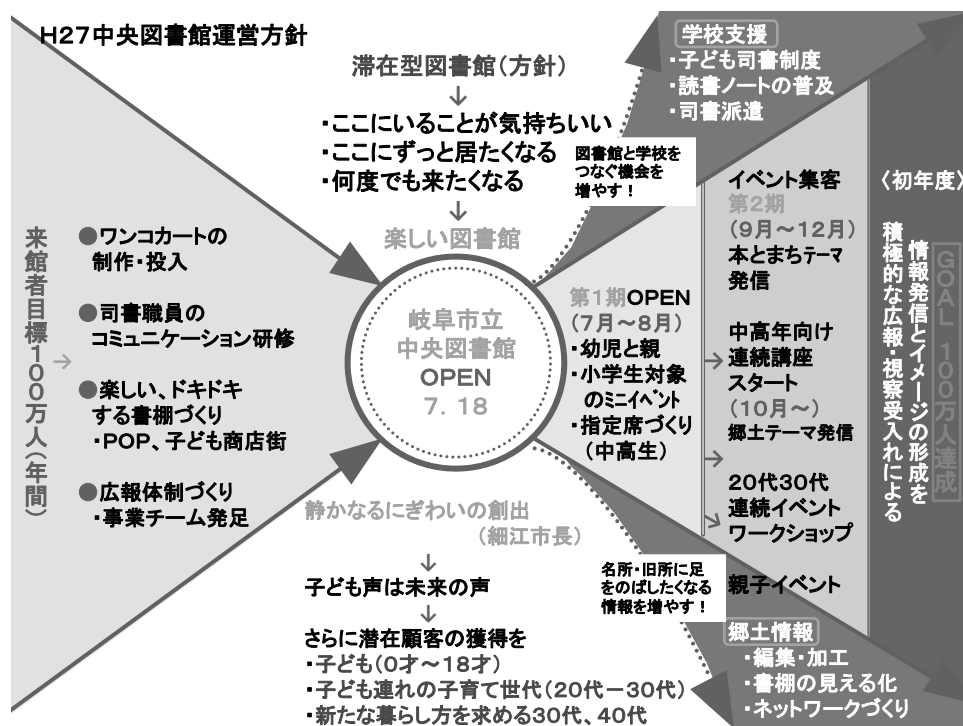
● 4つの柱となる事業について



(2) 事業全体の考え方

中央図書館の開館に伴い、長良川大学、文学ライブ、ファッション（分館）の講座など、これまでの事業継続をはかりながらも、これからの活動の方向性を鑑みつつ新たな事業を以下の観点から全体としてくり直した。（以下のチャート参照）

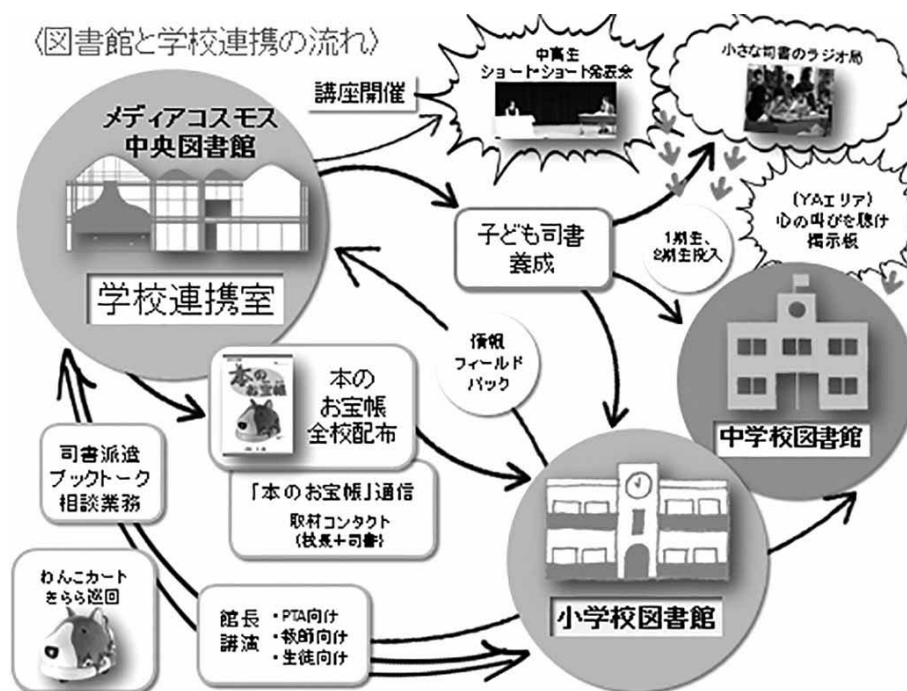
その際、これまでの旧本館を利用していなかった層、つまり、新たな潜在顧客層を掘り起こすこと、その際、乳幼児連れの母親、小学生、中高生、20代30代の子育てファミリーを誘引できる磁場となるため、講座やイベント、交流の場が必要と考えたからである。また、生活文化、歴史に関わる身近な情報の提供も欠かせないことから、シニア向けでありつつ若い世代でも参加しやすいテーマにも取り組むこととした。



### 3. 学校連携室

#### ○趣 旨

学校と学校図書館と市立図書館が一体となって子どもたちの読書活動を活発にする取り組みを充実させていくため、平成27年度から、中央図書館内に「学校連携室」を設置し、学校に関わる読書活動の事業を集約している。



#### ○内 容

学校連携室では、以下の事業を推進している。

- (1) 「学校司書の研修会・交流会の開催」では年に3回、岐阜市立図書館が主催の司書業務研修会・交流会を開催し、各学校図書館担当者及び学校司書の研修を通して各学校の読書指導の向上と情報交換等に努めている。
- (2) 「司書派遣」では、市立図書館の司書が学校へ出向き、学校図書館の運営相談にあたる。さらに、資料の修理やブックカバーの貼り方、レファレンス能力の向上といった図書館に関する実践的な研修を実施している。  
また、児童、生徒に読書や本に親しみをもってもらうために、読み聞かせやブックトークを行っている。読み聞かせに関しては、おはなし派遣ボランティアの協力を得て、実施している。
- (3) 「図書館見学」は、学校等団体からの受け入れを行っている。予約の時にコースや日程の調整をし、学年に合わせたおはなし会の実施、複合施設として図書館だけでなく、メディアコスモス全体の案内も行っている。  
校外学習として来館する時は、前もって司書への質問事項を聞いて準備している。  
社会見学の一環として、図書館に来たことのない子どもたちも、図書館はこんな楽しいところなんだ、また来てみたい、という気持ちを育むために受け入れを実施している。
- (4) 「資料の貸出」については、調べ学習などに活用できるよう、テーマ別にセットで用意している資料と、学校運営等に役立つ教育支援資料を揃えている。学校連携室に実物が配架されているので、来館し内容を確認することができる。

(5) 「相談窓口」は、学校の先生や学校司書の方からのいろいろな質問、相談に対応している。

見学の申込みから、貸出資料のテーマによる資料の収集、ブックトークの計画や、学校図書館の配架の仕方に至るまで、随時相談を受け付けている。

(6) 読書ノート（本のお宝帳）の取り組み

読書ノート「本のお宝帳」は、子どもの読書の意識を高め、本を読む楽しさを知り、感じた思いを伝える力を育むことを目的として、平成27年度から市内の小学生を対象に配布を行っている。

「本のお宝帳」1冊に50冊の本の感想とおすすめ本の紹介が記入でき、「本のお宝帳」1冊分の記入を達成すると、達成の証となるシールを貼り、おすすめの本の紹介ページを図書館が集めて展示している。

「本のお宝帳」の達成冊数の段階により、称号の授与をしており、今後、各称号の子どもたち同士の集まりの場を作り、情報交換やイベント等を開催して読書推進を図っていく。

称号	サブリーダー	リーダー	マスター	グランドマスター
本のお宝帳冊数	4～6冊目	7～9冊目	10～15冊目	16冊目～



(平成27年度実績)

おすすめ本ページ提出校数	おすすめ本ページ回収数	サブリーダー数
36校	348枚	27人

また、「本のお宝帳」通信を年4回発行し、学校図書館の取り組みを紹介している。中央図書館に届けられた、おすすめ本の紹介ページは、原本を学校図書館に展示できるよう返却し、中央図書館でも展示を行って、双方で子どもたちの声を発信する場を設けている。

この取り組みにより、子どもたちが本を読むだけでなく、その楽しさを表現し、感動を他の人に伝える力を育んでいくことを目標とし、子どもの読書推進を図っていく。



読者  
**★本のおたからちょうの つがいかた★**  
 本のおたからちょうは、本をよんで ねにのり かきまくったから  
 かいてください。

**読者のてい** は、「学校でかりた」や「図書館でかりた」、「あ  
 げおやんののり（プレゼント）（OOちゃんがあもしろいって  
 たよ）」などメモがでるよ。

よみ手 番号 11	タイトル おもしろなかな	読者のてい としまんてかりたよ	よみ手 タイトル 読者のてい
よみ手 番号 9	タイトル ぼくお月さまとばなしたよ	読者のてい OOちゃんからかりたよ	よみ手 タイトル 読者のてい

のところには、「OOちゃんがあもしろいって  
 いったので よんでみたら、すごく あもしろかった  
 とか「ねるまえに いつも あひるんが よんでくれる  
 たいまはな えほんなんど」とか、イラストを かいて  
 ほしいねんよ。

カグチキョー

○今後に向けて

平成28年度からは、低学年用の読書ノート「本のおたからちょう」を作成し市内の新小学1年生に配布を開始する。

また、市内の全小学校の学校図書館システムと市立図書館システムを連動させる改修を平成27年度に行い、学校図書館から市立図書館の蔵書を予約し、学校図書館を通じて貸出し・返却ができる仕組みを構築した。これにより平成28年度から、順次全小学校で児童への予約貸出しを開始していく。

学校図書館は、どの児童でも利用できる身近な図書館であるので、この学校システム連携により、学校図書館で予算等の関係により準備できない図書を、市立図書館が補い、学校図書館を支援していく。また、各市立図書館・室からは遠く、市立図書館を利用することが難しい児童たちも、学校に居ながら市立図書館の本が借りられるよう、この事業を進めていく。



## 4. 図書館事業

### (1) 子どもの育成

子どもが本を読むことだけでなく、読書を通じて自らが心に感じ、その気持ちを表現する力、他の人にも伝える力を育むことを目的とし、きっかけとなる場所や仕組みを創りながら子どもの参画をうながす事業を推進する。

#### ①おはなし会

##### ○趣 旨

子どもたちが、本と出合う機会が増えるように、毎月各館・室で対象年齢の子どもたち向けのおはなし会を開催する。おはなし会は聞き手の子どもたちと、読み手の司書がその時々で作りあげていくライブ感覚が醍醐味である。

##### ○内 容

おはなしの部屋でボランティアと共に、季節や年齢に合わせて絵本・紙芝居・手遊びといったプログラムで行う。子どもたちは、おおむね熱心に聞き入ってくれるが、集中力が途切れてしまうこともよくおこるため、時には歌や体を使った遊びを取り入れ、適度に息抜きを入れるなどの工夫をしている。

##### ○今後に向けて

常に新しいプログラムを作成して、何度でも、またこれなら興味があると図書館に行く気持ちがわきあがるよう、工夫を続けていきたい。

##### ○定例のおはなし会

会 場	開催日時	対象年齢	開催回数	参加人数
中央図書館	毎月第1水曜日・第3水曜日	0歳～3歳	9	823
	毎月第1土曜日・第3日曜日	3歳～6歳	12	486
	毎月第2土曜日・第4日曜日	小学生	12	400
	毎月第3土曜日	乳幼児(わらべうた)	5	292
分 館	毎月第4土曜日11時	0歳～4歳	11	445
	毎月第4土曜日14時	5歳～小学生	11	252
長良図書室	毎月第2土曜日	0歳～小学低学年	11	183
東部図書室	毎月第1水曜日	0歳～4歳	12	237
西部図書室	毎月第1土曜日	4歳～小学生	10	216
	毎月第3金曜日	0歳～3歳	11	430
長森図書室	毎月第1金曜日	0歳～3歳	11	413
	毎月第3水曜日	0歳～3歳	11	337
柳津図書室	毎月第2土曜日	4歳～小学生	11	141
	毎月第3水曜日	0歳～3歳	12	356
合 計			149	5011



### ○読み聞かせタイム

中央図書館で、毎日平日の午前中に主に乳幼児向けのおはなし会を開催。

会 場	回 数	参加人数
中央図書館おはなしの部屋	174	3897

### ○特別おはなし会

イベント名称	開催日	開催館	内 容	来場者
サイエンス おはなし会	8月2日(日)	柳津図書室	「科学」をテーマ(今回は『ばける』)としたおはなし会 読み聞かせ、実験タイム等	89
クリスマス★ スペシャル おはなし会 4歳～小学生	12月6日(日)	中央図書館	クリスマスにちなんだおはなし会 ハンドベル、パネルシアター、大型絵本、 工作等	104
クリスマス おはなし会	12月12日(土)	長良図書室	クリスマスにちなんだおはなし会 手遊び、ハンドベル、大型絵本等	24
クリスマス★ スペシャル おはなし会 0歳～3歳	12月16日(水)	中央図書館	クリスマスにちなんだおはなし会 ハンドベル、パネルシアター、大型絵本、 エプロンシアター等	191
クリスマス おはなし会	12月16日(水)	長森図書室	クリスマスにちなんだおはなし会 手遊び、ハンドベル、大型絵本等	36
クリスマス おはなし会	12月18日(金)	西部図書室	クリスマスにちなんだおはなし会 大型絵本、エプロンシアター、ペープサート等	73
おはなし会 スペシャル	1月23日(土)	分 館	大型絵本、紙芝居、人形劇等様々な演目を含んだ拡大版おはなし会	95
メディコ マーケット おはなし会 0～3歳	3月2日(水) 3月3日(木)	中央図書館	0～3歳向けのおはなし会の拡大版 絵本、紙芝居、ブラックパネル、手遊び等	320



### ②きららのおはなし会

参加者：7,743人

#### ○趣 旨

定例のおはなし会は、部屋で暗幕を引き、落ちついた環境で行われているが、そういった、通常のおはなし会とは差別化し、場所を見通しのよい親子のグローブとし、おはなし会の途中でも通りすがりに、気になればすぐ参加できる環境で行うおはなし会である。中央図書館のシンボルとなるキャラクターが、

メディアコスモスの建物から外へお散歩に出かけておはなし会をPRし、今まで図書館には来なかった子どもたちや保護者にも、図書館に親しんでもらうために行っている。

#### ○内 容

わんこカートきららに本をいれて、中央図書館の親子のグローブで土・日・祝日に行くおはなし会。

中央図書館には、親子のグローブ（0歳から3歳専用スペース）が設置されている。ここはオープンスペースで、赤ちゃんとその保護者が自由に座ったり寝そべったりと、まるで家の居間で寛ぐように過ごせる場所になっている。

親子グローブは、普段0～3歳の子たちの専用スペースだが、きららのおはなし会の時に限り年齢制限なく参加することができる。

わんこカートきららは、中央図書館の司書がイメージデザイン案を出して作成された。また、「きらら」の名前は子どもたちに公募し、約1,294通の中から候補を選出、子どもたちの投票を経て選ばれた。

きららは子どもたちに非常に人気があり、触ったり抱きついたり後を追いかけてたりして、おはなし会に子どもたちを誘ってくれる。

月に一度、館長がおひげ姿で登場するのも恒例になっている。

#### ○今後に向けて

読み聞かせの方法についても、聞き手の子どもたち自身の内的な感情の表示を促すような、アクティブなプログラムを取り入れ、子どもたちが本と親しむ入口として、他のおはなし会とは一線を画し、垣根を低くして広く読書活動を啓発していく活動にしていく。

### ③えほんフェスティバル

開 催：11月21日（土）～23日（月・祝）

#### ○趣 旨

児童のグローブをえほんの森に見立て、おとぎの国へ旅をしてもらうイベント「えほんの森を旅しよう！」を開催する。様々なアプローチから絵本の世界を展開することにより、子どもたちの心に絵本の楽しさが伝わってほしいとの思いで開催するものである。

#### ○内 容

えほんフェスティバルの期間には児童のグローブ内に段ボールハウスが出現し、子どもたちがハウスの中に入ったり、窓から覗いたりしてえほんの森を楽しんだ。また「ぬいぐるみのおとまり会となかよしおはなし会」を開催したり、冠を作って王様や王女様気分になったり、パレードで絵本の登場人物に扮して闊歩するなど、えほんの森を自由に旅した。

#### 【ぬいぐるみのおとまり会となかよしおはなし会】

参加者：4歳～小学生までの子どもたち14名とぬいぐるみ14体

子どもたちのお気に入りのぬいぐるみが、子どもたちの代わりに夜の図書館でお泊りをした。まずは、ぬいぐるみと一緒におはなし会に参加。夜のぬいぐるみたちの様子をこっそり写真に撮って、翌日お迎えの時にプレゼントした。また、ぬいぐるみたちが読んでいた絵本を展示して、絵本の紹介をし、興味がある子どもたちは絵本を借りて帰っていくなどしていた。



### 【わんこカート「きらら」愛称決定授賞式】

参加者：約50人

中央図書館で土・日・祝日のおはなし会で大活躍のわんこカートの名前を、子ども限定で夏休み中に募集したところ約1,294通の応募があった。その中から、「きらら」の愛称に決定。「きらら」の名前を考えた子どもといっしょにみんなで「命名式」のお祝いをした。



### ○今後に向けて

ぬいぐるみおとまり会となかよしおはなし会やパレードは、子どもたちからも「またやって欲しい」という要望があり、中央図書館のえほんフェスティバルとして今後恒例となるイベントに定着するよう、テーマを刷新しながら成長させていく。

### ④カンチョーとヒミツのおさんぽ

開催：①10月25日（日）、②11月15日（日）、③12月13日（日）、④1月10日（日）

中央図書館おはなしのへや 他

参加者：①17人、②25人、③25人、④19人

### ○趣旨

館長の案内で、子どもたちがファンタジックな世界観の中で絵本の世界に親しみ、創造力を醸成するとともに、親子で図書館を楽しいところであると感じてもらうことを目的に開催。

### ○内容

#### 第1回「ムーミンを巡る旅。フィンランドのおはなしと周辺おさんぽ」

ムーミンになりきって外に出て、作った舟を川に浮かべたりハンモックを吊るしたりして遊んだ。

#### 第2回「森と妖精を巡る旅。森と風のがっこうのおはなしと周辺おさんぽ」

小人探しの散歩に出かけたあと、オリジナルの妖精をつくり、影絵の即興劇を行った。

#### 第3回「クリスマスを巡る旅。本で手作りの贈り物を作るのと周辺おさんぽ」

一緒にイベントに参加している子同士でプレゼントを作って贈り合ってもらった。

#### 第4回「宮沢賢治を巡る旅。セロ弾きのゴーシュのおはなしと周辺おさんぽ」

チェリストの北村多佳子さんをゲストに招き、セロ弾きのゴーシュの一場面を朗読に合わせて体で表現する即興劇を行った。

また、このイベントの様子や、関連した本をエントランスに展示し独特の世界観で行われたこのイベントを紹介した。

### ○今後に向けて

毎回テーマに沿った一冊の本をきっかけに、館長がファンタジーの世界へ案内し、想像力を膨らませながら屋外への散歩や工作、劇遊び等を行った。本から想像して自分で何かを作ったり、本に出てくるキャラクターになりきったりすることで、いつもと違う視点から本の世界に入り込むことができた。また、親も子どもと一緒に参加してくれたことで、親子や参加者同士の交流が深まり、楽しいイベントになった。今後も様々な形で子どもたちの創造力をかきたてる事業を進めていく。



## ⑤第一期子ども司書養成講座

開催：12月23日（水）、26日（土）～28日（月）ぎふメディアコスモス あつまるスタジオ 他

参加者：21人（うち認定者20人）

講師：アンドリュー・デュアー氏（東海学院大教授）ほか

### ○趣 旨

子どもの読書啓発のためには、親や学校からの働きかけだけでなく、友人同士の読書の広がりがあることが効果的である。学校現場での読書推進のリーダーを育成するため、子ども司書養成講座を行う。司書の仕事を知ることはもちろん、子どもたちが本を読むことを通して思ったり考えたりしたことを、友達や大人に、自由楽しく他の人に伝えていける子どもを毎年育成していくことを目的に実施。

### ○内 容

4日間で全16講座を開催し、14講座以上を受講した参加者を子ども司書として認定した。

図書館の仕組みや司書の仕事を学ぶ講座として、図書館の分類や選書、本の修理、読み聞かせの仕方などを実践も交えながら学んだ。レファレンスの講座では利用者が本当に探している本を見つけるためにその本をどんなところで使うのか、どういった目的で使うのかなどを聞くといいなどコツも教わり、楽しみながら学んでいた。

また、おすすめ本の紹介をするブックトークやPOP作り、絵本作りなど、自分が好きなものや自分の思いを発信する講座も行った。絵本作りの講座では、仕掛け絵本などオリジナリティあふれる絵本ができ、完成したものは最終日にみんなの前で発表した。

### ・カリキュラム

講 座	内 容
①-1 オリエンテーション	・子ども司書とは？
①-2 図書館の見学・探索	・図書館の見学及び自由探索
①-3 基礎講座	・図書館と司書について、読書の役割
①-4 司書の仕事①	・カウンター、レファレンス、検索
②-1 司書の仕事②	・NDCと分類、目録、配架
②-2 本の分類	・本のテーマの決め方、分類番号の選び方
②-3 おはなし会の見学と実践	・絵本の読み聞かせの見学と体験
②-4 手作り絵本の製作①	・実際に話を考え、絵本づくりを体験①
③-1 インターネットの利用、取材、生涯教育	・本以外の情報の活かし方を学ぶ
③-2 手作り絵本の製作②	・実際に話を考え、絵本づくりを体験②
③-3 本づくりとスクラップブック	・本の作り方（本ができるまでの作業）について
③-4 司書の仕事③	・本の面白さを友達に紹介する方法を学ぶ
④-1 司書の仕事④	・図書館の本の選び方、修理方法を学ぶ
④-2 ポップを作ろう	・本のディスプレイやポップの作り方を学ぶ
④-3 子ども司書の仕事と活動の内容	・子ども司書の活躍の場について
④-4 認定式	・子ども司書認定証の授与式

### ○今後に向けて

想像以上に関心が高く、定員の4倍以上の申込があり、抽選となった。参加者はいずれも真剣に取り組んでいる様子だった。子ども司書認定式の後に参加者に感想とこれからやりたいことを聞いたところ、子ども司書でラジオをやりたい、子ども司書新聞を作りたい、図書館に子ども司書コーナーを作りたいなどの活発な意見が出た。1日目から3日目までは子どもたちの表情も硬かったが、最終日には4日間の講座を終えた自信を身につけ、自分の思いをどんどん出してくれたと感じた。今後この講座を毎年行っていくとともに、講座を終えた子ども司書たちが思いを表現したり、主体的に活躍できる環境を提供していく。



### ⑥めざせ直木賞作家！ぼくのわたしのショートショート発表会

開催：10月11日（日） ぎふメディアコスモス みんなのホール

発表：8人 観覧：160人

講師：朝井 リョウ 氏（直木賞作家）

#### ○趣 旨

岐阜ゆかりの作家であり、中高生を中心に幅広い人気のある直木賞作家の朝井リョウ氏を招き、将来作家を目指す中高生の子供たちの自作短編作品の発表会を行う。子どもたちにはあこがれのプロ作家からの言葉をはげみとし、将来の夢実現のための礎としてもらい、公開講座の形式をとることにより市民の小説を書くことへの関心や読書意欲を喚起し、将来岐阜市から直木賞作家を輩出する契機となることを期待し開催。

#### ○内 容

市内の在住、在学の中高生を対象に広く短編小説を募集したところ60作品の応募があった。その中から朝井氏を中心になって選定した以下の8作品を選抜し、当日の発表作品とした。

#### 中学生 選定作品

タイトル
私が閻魔でない訳。
語り継ぐ宝物
ウィルシャワー

#### 高校生 選定作品

タイトル
抜かすの刀
とある居酒屋にて
走れ
ベイビーブルー
豆同盟

観客には事前に作品集を渡し、中学生から順に朗読を始めた。一人終了するごとに朝井氏のコメントが入り、発表者に語りかけられる氏の丁寧かつ真摯な言葉に聴衆も聞き入っていた。例えば、高校生の作品では心の動きを際立たせる文体を評し「自分の感覚を大切にし武器にしてほしい」とアドバイスを送るなど、作家らしい視点で中高生の背中を押していた。作品は想像以上にレベルが高く、時代劇や青春小説、ミステリーなどバラエティに富んでおり、観客を楽しませていた。

朝井氏への質問タイムになると、学生から大人まで幅広い年代から質問を受け、朝井氏はその一つ一つに丁寧に回答し、笑いもあがっていた。会場には学生と思われる観客が多く来ており、「今は検索したらすぐに答えが出てくる時代ですが、ものを書くというのは自分で0から100まで考える作業で、私は書きながら自分の頭で考えることの難しさと大切さをいつも感じている。書くということは考えることなので、必ず皆さんの人生の中でいつか自分を助けてくれる。たくさん書き続けて下さい。」とエールを送った。

図書館展示グローブでは郷土作家である朝井氏の特集展示を行っており、イベントの様子も掲示し利用者に紹介した。

#### ○今後に向けて

初めての試みということもあり、作品が集まるか不安であったが、60件と想像以上に多くの応募があり、文芸部全体で取り組んだ学校などもあった。アンケートでは「来年同じイベントがあったら自分も応募したい」などの声もあり中高生たちの関心を得ることができたと感じた。また、多くの聴衆の前で自分の作

品を朗読するなど、中高生にとって難易度の高さが懸念されたが、いずれの参加者も緊張しながらもしっかりと朗読をこなし、朝井氏との会話のやりとりもスムーズだった。中高生たちの表現力、コミュニケーション力の高さを強く感じた。発表者の中には普段から物語を書いている子もいたが、これが初めてだという人もおり、このイベントが子どもたちの文章を書くきっかけとして、役割を果たしたと言える。また、また来場者からは「中高生の作品のレベルの高く、本人による朗読に引き込まれた」など中高生の力に感心したとの声が多く、単に直木賞作家の話を書くというだけでなく、中高生が主役のイベントになったと感じた。開館記念のイベントと考えて始めたが、恒例イベントとして来期も開催していく予定。



### ⑦小学生向け調べもの講座「図書館の謎を探れ！？すすめ！メディコス探検隊」

開催：8月23日（日）中央図書館おはなしのへやおよび2階図書館フロア全体

参加者：11人

#### ○趣 旨

小学生に図書館の使い方や分類について知ってもらうことで、自分で調べる力を身につけてもらう。

#### ○内 容

中央図書館開館直後ということで、図書館内の探検と組み合わせた講座を行った。前半は図書館の分類や排架方法について学び、後半は3グループに分かれて館内を探検し、グローブ名などの謎を解きながら、新しい図書館の本の配置を知ってもらった。

実際に自分の足で調べにいくような内容を組み込んだので、子どもたちも楽しみながら参加してくれた。

#### ○今後に向けて

実際に本を探してもらうことまで行えなかったことが反省点として挙げられる。それを踏まえ、次年度以降も楽しく図書館の使い方や調べ方について学んでもらう場を提供していきたい。

### ⑧FC岐阜との連携

#### ○趣 旨

地域との交流に力を入れ、若い世代に影響力を持つ地元サッカーチームと連携した事業を展開することで、図書館の利用促進と地域の活性化を図るために行う。

#### ○内 容

FC岐阜の選手による推薦図書とコメントを載せた、リーフレット・しおり及び読書啓発ポスターの作成をし、各中学校・高等学校に配布している。また、年に一度FC岐阜ホームタウンデーの日に、観客にしおりを配布して啓発活動をしている。更に一定期間中央図書館と分館で、選手の推薦図書とFC岐阜のグッズを展示し、選手のお気に入りの本や地元チーム両方に興味をわいてくる企画を行って連携を進めている。

#### ○今後に向けて

サッカーには興味があるが、読書に興味がなかったり、図書館には出向かなかった子どもたちが、お気に入りの選手が薦める図書であれば、手に取ってみて読んでみようという気持ちになる。本を読むきっかけづくりとして、今後も目をひくリーフレットを作成し、展示を行っていく。また、本好きの子どもたちが、FC岐阜の展示や選手の推薦図書をみて、その選手やサッカーに興味をもち、試合を観戦してみるきっかけになるよう、相互の活性化のため連携を続けていく。

### ⑨木育事業

#### ○趣 旨

中央図書館は、天井が東濃ひのきで覆われ、木の香りがする森のような作りになっている。もともと岐阜県では、産業や生活に根付いた独自の「木と共生する文化」を育んできた歴史があり、岐阜市も同様の文化が息づいている。「木育（もくいく）」とは、森と木からの学びという意味であり、木育を通じて、子どもたちをはじめとするすべての人々が、森林（自然）に誇りと愛着をもてるように、人材を

育成していくことを目指している。そのため中央図書館では、ちいさな子どもの頃から、木とふれあえる場を提供することとし、この事業を行っている。

### ○内 容

親子のグローブを木のベンチで囲い、保護者が座ってグローブ内の子どもたちを見守られるようにした。このベンチを設置してから、安心して赤ちゃんをハイハイさせることができるようになり、落ち着いた空間を作り出すことができている。更にこの場所に、木の玩具を置いて、ちいさな子どもの頃から木を触り、香りを嗅ぎ、様々な種類の木目を目にし、握りしめてそれぞれの重さを感じることができる機会を提供していることから、岐阜県より木育ひろばの認定も受けている事業である。この木育ひろばで、毎日子どもたちは木の玩具で遊んでおり、保護者もその様子を見守っている姿が見られている。

### ○今後に向けて

親子のグローブのすぐ近くの書架が一部育児支援の書架になっているので、その一角を使って木育に関する図書資料を司書が毎月選書して、展示を行っていく。また木育わんこと銘打って、季節ごとの年4回程度、わんこカートきららのおはなし会の中に季節にあった木や自然に関するおはなしや遊びを取り入れて木育事業を拡げていく。

## (2) 郷土の魅力

市立図書館として、行政・地域機関が発行した図書をはじめ、郷土出身者の著書やパンフレット類など多様な資料の収集に努めている。さらに、郷土を知る機会を文字資料に限らず提供し、主体的に創出して残していくための取り組みも進める。

### ①みんなの図書館おとなの夜学

#### ○趣 旨

岐阜の地域文化、歴史に関わる内容をテーマにした「岐阜にしながら知らなかった岐阜のこと」を学べる講座を、NPO法人ORGANとの協働事業として全4回開催。講座は専門家によるアカデミックな講座とは一線を画しており、各分野の専門家と市民感覚のナビゲーターとの掛け合いによって進む敷居の低さも特徴の一つである。また講座の内容を撮影し、アーカイブ化することにより、講座参加者だけでなく広く情報発信を行うとともに、後世に保存していく。

#### ○内 容

【第1回】岐阜に美味しいものってあるの？ -長良川の食と職-

開 催：12月19日（土） ぎふメディアコスモス つくるスタジオ

参加者：40人

講 師：泉 善七 氏（泉屋物産店五代目社長）

平工 顕太郎 氏（長良川若手漁師・鶴飼船頭）

第1回は「長良川の食」をテーマに行った。タイミングよく「清流長良川の鮎」が世界農業遺産に認定され市民の関心も高まる中でイベントとなった。講師の泉善七氏は長良川河畔の川原町で鮎料理専門店を経営しており、全国からこの店の鮎を食べる為にファンが訪れている。また平工顕太郎氏は川漁師や鶴飼船頭を生業としながら、長良川を案内する「結の舟」によるエコツアーも行うなど次世代に長良川の姿を伝えていく活動も行っている。

平工氏からは映像を交えて長良川の自然や漁について紹介があった。長良川で見られるセミの孵化の様子や台風シーズンの長良川の漁など、長良川の1年の様子が映像で流され、参加者も聞き入っており、次世代に長良川の文化を継承していこうという氏の思いも語られた。

泉氏からはお店で出している鮎の熟れずしや魚醤について、その誕生の経緯について話がされた。また、そこから派生した「鮎の白熟クリーム」や「あゆチョビソース」など、鮎を原料にした個性的な商品に参加者も興味津々の様子であった。

後半には二人の講師が「食」の視点から鮎の話を語り、平工氏と泉氏が持参した鮎の赤煮や熟れずし、守口大根、白熟クリームを参加者が試食した。



## 【第2回】岐阜で育って世界で戦えるの？ー長良川の育む感受性ー

開催：1月4日（月） ぎふメディアコスモス みんなのギャラリー

参加者：58人

講師：日比野 克彦 氏（アーティスト）

神戸 智行 氏（日本画家）

新年開館日に合わせた特別回として、世界的にも活躍しているアーティストの日比野克彦氏と日本画家の神戸智行氏を招いて開催した。神戸氏の作品をスライドで見ながら、日比野氏が作品に対する想いや、制作にあたって気にかけてきた点などを尋ね、神戸氏が答えるという形式で進行した。続いて日比野氏の作品がスライドで紹介され、忠節橋をモチーフにした作品など、会場から感嘆の声があがるなど反応も良かった。両氏とも、岐阜で生まれた感性が作品に注ぎ込まれているようであった。

最後に会場が見守る中、二人のアーティストによる書初めドローイングが行われた。特注の本美濃紙に墨と筆を使い、川をイメージした作品を即興で作った。トークを交えながら二人が交互に大小さまざまな円を描かれ、金箔なども活用。二人のサインが入り作品が完成した。有名なアーティストが目の前で作品を作り上げる場所に立ち会える非常に貴重な時間となった。参加者からは「新春にふさわしいイベントでした」「丸を描いてみたくなりました」「ライブ感がよかった」「岐阜が誇らしく思えた」など非常に好評で新春イベントに相応しいものとなった。



## 【第3回】長良川鶴飼が天皇の鶴飼になった理由 ー秘話 かざをりゑぼしー

開催：2月26日（金） ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

参加者：40人

講師：小野崎 隆賢 氏（鳳川伎連事務局長、岐阜伎芸学校事務局長）

鳥本 浩平 氏（岐阜市教育委員会社会教育課）

第3回は長良川鶴飼をテーマに開催した。小野崎隆賢氏は岐阜のお座敷遊びや舟遊びなどの遊宴文化研究・再生に取り組んでおり、岐阜市社会教育課で鶴飼の調査を担当している鳥本氏との対談という形で進行した。会場には畳のステージや金屏風を用意し雰囲気を盛り上げた。初めに遊宴文化についての映像が流され、近世以降の長良川鶴飼いと舟遊びを描いた絵画や、明治期から現在に至るまでの岐阜におけるお座敷芸とそれにまつわる文化、実際の舟遊びやお座敷遊びの様子などが小野崎氏から紹介された。鳥本氏からは『信長公のおもてなし』が息づく戦国城下町・岐阜』が日本遺産となるまでの経緯が解説された。その後「かざをりゑぼし」の唄と舞をめぐる歴史秘話を記録した映像が上映された。最後に帮間喜久治による舞「かざをりゑぼし」をはじめとした舞が3曲披露され参加者を楽しませた。岐阜の人ならだれでも知っている長良川鶴飼について、実は知らないことがたくさんあることが語られ、明治維新以降の鶴飼を残すための物語など非常に興味深い話がされた。



## 【第4回】古墳をめぐる物語 古代の岐阜ってどうだったの？ ー日本最大級の古墳集積地で語るー

開催：3月15日（火） ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

参加者：55名

講師：藪下 浩 氏（元岐阜市歴史博物館館長）

木村 洋子 氏（長良会古墳部部长／陶芸家／コフニスト）

古墳をはじめとした古代史の研究をしてきた藪下氏と、古墳の魅力に取りつかれた「コフニスト」の

木村氏による対談となった。木村氏からは古墳に関する活動を映像も交えて紹介され、石室の魅力について語った。藪下氏からは、専門家の視点から古墳についての基本的な知識や岐阜市の古墳の例について話がなされた。両者の視点から古墳についてのロマンのある話まで展開され、参加者も古代に思いををせながら興味深く聞いている様子だった。



古墳というあまり岐阜と結びつかないと思っていたテーマであったが、身近な場所に意外に古墳があるというまさに再発見となった。

### ○今後に向けて

当イベントは初めてのNPOとの協働事業という形で行われ、NPO法人ORGANが岐阜を拠点に行っている事業で培ったネットワークや地域文化への理解がイベント実施に役立つことになった。企画、対談の進行とともに同法人の果たす役割は大きく、協働イベントとして有意義なものになった。参加者年齢もこの手の講座としては20代～30代の参加者がかなり多く、古いものと新しい感覚が混ざり合うイベントとなり、旧図書館で開催していたイベントとは大きく異なっている。各回とも「知らなかった岐阜のこと」を知る機会となり、申し込みもすぐに定員に達するなど4回行う中で徐々に「おとなの夜学」ファンの獲得が進んでいるように思えた。郷土の魅力を発信する事業として、今後も協働の形をとりながら進めていく。

### ②信長公コーナー

岐阜市立図書館本館の移転に伴い、郷土資料エリアの一角に新設した。ここでは、郷土・岐阜の発展に多大な影響を与え、この地から天下統一へと進んでいった「織田信長公」を取り上げている。信長公自身だけでなく、岐阜城をはじめとする居城や城下町、諸大名たちとの関係や、文化などに関する歴史的な内容の資料から、信長を題材にした小説を含み、大人向けだけでなく児童向けのわかりやすい資料の収集も進めている。



3月31日時点資料数：1,045冊

### ③デジタルアーカイブ

#### ○趣 旨

岐阜市立図書館の前身・岐阜簡易図書館の核をなした楠堂文庫や市立図書館創設期に寄贈された松尾文庫には、和装本が多く含まれている。しかし、経年により脆弱になっているうえ、刊行から長い年月を経て希少となっている資料も多いことから、取扱いに注意を要し、利用が限られていた。そのため、著作権が切れている和装本を順次デジタルデータ化する業務を平成26年度から開始し、インターネットで閲覧できるように提供を始めた。

平成27年度は郷土の歴史や地誌、文学などの資料を中心に57タイトルデジタル化し、3月31日現在で66タイトルをインターネット上に公開するとともに、順次公開作業を進めている。

#### ○デジタル化資料一覧

宗 教	
伊奈波神社境内地譲与拠証文献	
歴 史	
美濃国古蹟古戦場節録	岐蘇路名勝図
厚見郡古城主寺之事□*	岐蘇路記
岐阜町尽	美濃国岩手竹中丹州旅行
木曾峽遊記	

文 学	
稼堂還曆賀墨集	山陽詩註
歌人必携	春畝遺稿
和歌梯	天游詩鈔 別集
万葉集略解	新撰詩語対句便覧
和詩選	詩語対句自在
俳句集	明治新題詩作便覧 [正]・続編 (大正二年刊)
天が下長閑にて	金声玉振新撰詩学活法 (明治二十八刊)
風観斎長雅元夢居士七回忌 法蓮百首和歌	金声玉振新撰詩学活法
浦の志ほ貝	暢園詠物詩
浦の塩貝拾遺	三雲集
俳諧歳時記新葉草	即真詩集
矢橋南圃翁遺詠	漢詩作法幼学便覧
神楽哥・催馬楽	訂正増註源氏物語湖月抄 第三・四・六・七編
長篠合戦	平家物語講義
関原戦記	校正首書紫式部日記
信長記 卷第一之下・第二	新制最新女子国分読本 卷八
駿台雑話	魯山堂漫記
梅花十詠	南宮詩鈔
古文典刑	林則徐臨書
山陽詩鈔	秣陵集
山陽詩鈔 (明治十一年刊)	杜律五言集解
新撰名家詩文 卷之中	唐詩解頤
月瀬記勝	三蘇文盛
文字禅 第八卷第九号	翻刻謝選拾遺 卷之四～七
山陽詩鈔集解	山谷題拔 中・下
飲醒醐	増註唐賢七言絶句三体詩法 卷之一
梅窗遺稿	古文真宝鈔
白雲日記	竹外二十八字詩 後編卷上
菽村存稿	纂評唐宋八家文読本

※□は欠損のため判読不能

#### ○今後に向けて

過去に国文学研究所がデジタル化した資料のデータを、平成27年に受けており、順次公開をする見込みである。また、画面の拡大により見やすくなるなどの利点を生かすため、対象資料を古地図などにも広げていく。

#### ④展示

タイトル	期 間	内 容
岐阜市を歩こう 文学編	7月18日～ 9月28日	「篝火」、「白い魔魚」など岐阜を題材とした文学作品と共に、その舞台となった場所の散策MAPを作成して紹介。
岐阜市が誇る！長良川鶴飼	7月18日～ 9月28日	長良川鶴飼の歴史と、現在の鶴飼いや鶴匠の紹介。
日本遺産「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜	9月30日～ 12月28日	平成27年にはじまった日本遺産に選定された岐阜町と織田信長の関わりを紹介。

郷土作家 ペンギンとゆく！ 高島純さんの世界	11月25日～ 2月22日	略歴とともに、高島氏の人気キャラクター「ペンギンたんけんたい」を道案内役にし、その世界を紹介。
安楽庵策伝 策伝大賞	12月30日～ 3月28日	策伝大賞に関連し、安楽庵策伝の生涯や落語、さらに策伝大賞を経てプロになった学生たちを紹介。
岐阜出身 池井戸潤の世界	2月24日～ 3月28日	映像化された作品を、ドラマにちなんだグッズとともに紹介。さらに、銀行や町工場を舞台にした作品が多いことから、「岐阜の三大メインバンク」と「岐阜市ものづくりの現場から」と題して岐阜市で製造業を行っている企業を紹介。

### (3) 本がつなぐひと・まち

本には直接的、間接的に人と人をつなげる力がある。本を媒介とした様々なコミュニケーションを広げていくことで、図書館を中心とした人の輪を生み出し、そうした人の輪がまちとつながり、図書館とまちに人の流れを作り出す、「まちとつながる」「ひととつながる」図書館を目指す。

#### ①みんなのたからものマップ

##### ○趣 旨

岐阜市の中心部にある中央図書館では、図書館と周辺のまちとの間にひとの流れを生み出し交流につながる取り組みを進めている。その一つとして図書館の周辺のお店等を紹介する「みんなのたからものマップ」では、広く利用者からそれぞれのオススメの店を紹介してもらい、その中から選んだお店をマッピングし、利用者が手に取りやすいよう設置している。

##### ○内 容

今年度は「カフェ・喫茶・洋菓子」編として司書が作成した。図書館で本を借り帰りにお茶を飲みたくなった時などに手に取ってもらうことを想定した。紹介するお店については広く市民から意見を募集し選定した。またチラシとして配布するだけでなく、展示グローブでパネルにし利用者にPRした。



##### ○今後に向けて

一日に数千人が訪れる中央図書館の利用者に、まちの情報を提供していくことは今後も重要になってくる。昼食に役立てられるマップなど切れ目なく情報を発信し、まちに人を誘導していく「まちなか図書館」を目指したい。

#### ②ほん×まちフェスタ ～ラブラブライブラリーな5日間～

##### ○趣 旨

中央図書館開館から2カ月が経過し、新図書館が楽しい場所であると利用者を感じてもらうとともに、みんなが暮らす岐阜のまちが好きになる「ほん」と「まち」のコラボイベントとして、連休の5日間、日替わりでトークショーやワークショップを開催。

##### ○内 容

9月19日(土)～9月23日(水)

- ・トークセッション「ゆっくり、のんびり。ぎふで暮らそう」(後述)

開 催：9月19日(土) ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

- ・ワークショップ「消しゴムはんこ作り」

開 催：9月20日(日) 中央図書館 児童のグローブ

参加人数：59人

図書館司書の一人が自身の技量を生かし、子どもたちに消しゴムはんこのつくり方を教えた。親子

で協力しながら、動物や乗り物などのほか、自作の絵や自分の名前が入ったオリジナルはんこを作る参加者もいた。

・ブックトークショー「本がつなぐ、ひととまち」

開 催：9月21日（月） ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

参加者：51人

ゲスト：今尾 真也 氏（リトルクリエイティブセンター）×上田 哲司 氏（やながせ倉庫）×  
深谷 由布 氏（徒然舎）

ブックトークショー「本がつなぐ、ひととまち」では柳ヶ瀬で個性的なお店を開き、まちづくりにも積極的に取り組む3人のゲストを招き、今のお店に至るまでのあゆみやこれからどんなことがやりたいかを語り合った。また、ゲストが紹介した本にはそれぞれの「らしさ」が感じられ、参加者も興味深く聞いていた。「岐阜で何か楽しいことをやろう、みんなで楽しめる場所をつくろう」と試行錯誤するゲストの話がなされた。

・ワークショップ「活版印刷」

開 催：9月22日（火） 中央図書館開架エリア

参加者：38人

岐阜川原町のORGAN活版印刷室から講師を招き行った「活版印刷体験」では、貴重な体験に興味を持った利用者が多く集まり、友達同士でおそろいのしおりを作成するなどそれぞれ作品作りを楽しんでいた。

・「わんこカートの命名式」

開 催：9月23日（水） 中央図書館 親子のグローブ

「わんこカートの命名式」では、中央図書館児童エリアの象徴的な存在ともいえる「わんこカート」の名前を発表した。名付け親となった3人の児童も招待し、無事名前が決定した「きらら」も満足していた様子に見えた。

・「まちの古本屋さん」展示

近年減少しつつある市内の古書店を取材してマッピングし、店や店主の人となりなどを展示グローブにて紹介した。

○今後に向けて

中央図書館開館後、初めての本格的なイベントとなったが、子どもから大人まで多くの利用者に図書館のPRができた。「消しゴムはんこ作り」や「活版印刷体験」では実験的に別室をあえて設けず図書館の開架エリアでワークショップを行うなど、従来の図書館の雰囲気とは大きく異なる図書館の登場を印象付けることができた。ブックトークショーでは、商店街と図書館が連携した事業としては初めての試みで、今後の図書館の方向性を感じさせるイベントとなった。こうした商店街とのコラボレーションは様々な形で行っていききたい。



③トークセッション「ゆっくり、のんびり。ぎふで暮らそう」（全4回）

○趣 旨

毎回様々な分野のゲストを迎え、館長とゲストとの対談の中で、身の回りにある豊かな自然、子どもの育ち、これからの家族の暮らし方、モノとお金だけではない暮らしの楽しみ方を、くつろぎながら身の丈レベルで考える講座。ゲストによる本の紹介も併せて行う。

## ○内 容

### 【第1回】

開 催：9月19日（土） ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

参加者：38人

講 師：アンドリュー・デュアー 氏（東海学院大学教授）

岐阜市立図書館協議会の委員も務めているアンドリュー・デュアー教授をゲストとして招き、館長とのトークを行った。自然や遊びから育まれる豊かな子どもの感性が今回のテーマとなった。カナダ出身のデュアー氏がカナダで過ごした写真や、氏が作ったクラフト工作などを映像で紹介してもらった。また、初めてのトークセッションということもあり、館長の紹介も兼ねて、前年まで勤めていた「森と風のがっこう」での活動や子どもたちが作った絵本の紹介を行った。

開館して初めのイベントであり、参加者の反応も図書館への高い関心をうかがわせるものであった。デュアー氏の動画の使い方が面白く、終始楽しい雰囲気の中で行われた。図書館協議会委員でもあり、子ども司書養成講座の講師としても協力をおおぐデュアー氏の活動や感性についての紹介にもなった。



### 【第2回】

開 催：11月3日（火） ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

参加者：43人

講 師：松井 勅尚 氏（岐阜県立森林文化アカデミー教授）

岐阜市立図書館協議会委員でもある松井勅尚氏をゲストに迎え、「木育」をテーマにトークセッションを行った。会場では松井氏の用意した木に関する絵本40冊と、色々な種類の木の端材、そして木で作った鬼の角のオブジェなどを展示した。オブジェは即席で用意した「木育広場」に設置し、子どもたちが木育おもちゃで遊んだり、オブジェに乗ったりして楽しんでいた。前半で松井氏が木育に関し取り組んできたことや、木と共に生きること、私たちの生活の中の木について紹介し、後半で館長と木育をテーマにトークセッションを行った。



### 【第3回】

開催日：12月19日（土） ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

参加者：32人

講 師：岡田さや加 氏（ミツバチ食堂オーナー）

岡田 桂織 氏（桂樹庵オーナー）

岐阜柳ヶ瀬商店街振興組合連合会副理事長兼事業委員長で柳ヶ瀬でレストランを経営する岡田さや加氏と三重を拠点にオーガニック料理の出張料理教室「桂樹庵」を展開している岡田桂織氏が「食と農」をテーマに館長とトークを行った。岡田さや加氏がミツバチ食堂を作るまでに岡田桂織氏の穀物菜食の影響があったこと、岡田桂織氏の環境保護への思いなど、両氏が現在に至るまでの道のりを本の紹介も交えながら語ってもらい、テーマである「食と農」について考えた。

来場者からは「毎日おいしくご飯を食べることが、世界平和につながるという言葉が興味深かった」など反応が良かった。地元の柳ヶ瀬を拠点に精力的に活動している岡田さや加氏の考えや、これまでの歩みに来場者も感銘を受けていた。またさや加氏に大きな影響を与えた人物である岡田桂織氏の食についての考えや活動はとても興味深く、来場者もとても熱心に聞き入っていた。暮らしの中で欠かすことのできない「食」について深く考える機会となった。



#### 【第4回】

開催：2月27日（土） ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

参加者：38人

講師：西願 将也 氏（ムレスナ紅茶専門店annon tea house店主）

ぎふメディアコスモス近隣で紅茶専門店を営む西願氏をゲストに招いて館長とのトークセッションを行った。氏が岐阜に紅茶専門店を開くに至った経緯を本の紹介も交えて行った。岐阜で生まれてから一度上京し、そこから岐阜に戻ってきた経緯や紅茶との出会いや思いなどを、参加者は興味深く聞いていた。トークの中で事前に作って来てもらった水出し紅茶と、トークをしながら淹れたレモンティを参加者にふるまった。トークセッションで紅茶をふるまうという初めての試みだった。



#### ○今後に向けて

図書館では若い利用者も多く、第1回、第2回のような子育てをテーマにしたイベントを発信していくことは非常に意義深いことであると感じた。第2回では、木に触れることのできる仕掛けをしたことで親子で楽しめる空間になった。子供を遊ばせておく場所を作っておくことは、今後親子での来場が見込まれるイベントを開催する際には重要となってくる。館長と図書館協議会委員でもある講師との対談の中で、これから岐阜の図書館でどんなことをやろうとしているのかを知ることができてよかったという参加者の声もあった。また、第3回、第4回のように、岐阜市内で活躍する店主など岐阜のまちで活躍する人を講師として呼び、その考えや半生、岐阜での暮らしについて紹介することで、まちと図書館との連携、人と人とをつなぐ図書館のイベントに相応しいものとなった。今後も市民に紹介したい地域の個性的な人たちを、本をテーマに紹介する機会を設けていく。

#### ④ビブリオバトル「群雄割拠の書評王決定戦」

開催：10月10日（土） 中央図書館開架エリア

参加者：17人 観覧：19人

講師：坂本 牧葉 氏（岐阜市立女子短期大学講師）

#### ○趣 旨

図書館の開館から3ヶ月が過ぎ、初めての大型イベント「ビブリオバトル」を開館記念イベントの一つとして行った。「人を通して本を知る。本を通して人を知る」をキャッチフレーズとして全国に浸透しつつあるビブリオバトルは、まさに「みんなの森」に相応しいイベントであると考えたことから実施する。

#### ○内 容

初めての参加者、観衆も多いことから、初めにビブリオバトル普及委員会の坂本牧葉氏よりビブリオバトルの説明、質疑応答を行った。

次にエキシビジョンマッチとして岐阜市で活動している岐阜市読書サークル協議会、岐阜市立女子短期大学、岐阜市立図書館司書からそれぞれ一人ずつ代表者を出しビブリオバトルを行った。聴衆全員で投票した結果、岐阜市立女子短期大学の学生が紹介した「面白くて眠れなくなる人体」坂井建雄／著が見事チャンプ本となった。

最後は参加者がグループとなり、ビブリオバトルを行った。グループ名はそれぞれ「美濃国」「尾張国」「三河国」「伊勢国」の4つ。まさに「群雄割拠」である。中学生から大人まで老若男女が持ち寄った本を、持ち時間の5分間、知恵を凝らしてプレゼンしていた。

#### <チャンプ本>

- ・美濃国「彼女のこんだて帖」 角田光代／著
- ・尾張国「お任せ！数学屋さん」 向井湘吾／著
- ・三河国「図書館内乱」 有川浩／著
- ・伊勢国「ナゲキバト」 ラリー・バークダル／著

チャンプ本にはチャンピオンベルト（帯）と表彰状を、チャンプ本を紹介した参加者には図書カードを進呈し、イベントを終えた。

#### ○今後に向けて

「みんなの森」を象徴するイベントにしたい思いから、あえて「子ども部門」などの年代別にすることなく、バランスよく多世代を配置したグループ分けを行った。普段は全くかかわりのない人同士が本をテーマに交流をしている様子は、まさに「人を通して本を知る。本を通して人を知る」というキャッチフレーズ通りのイベントになった。今後もこうした本を媒介として人が交流できる場を提供していきたい。



#### ⑤講演会「本が人をつなぐ～まちライブラリーと図書館～」

開催：1月30日（土） ぎふメディアコスモス おどるスタジオ

参加者：37人

講師：磯井 純充 氏（まちライブラリー提唱者）

#### ○趣 旨

「まちライブラリー」の概念を岐阜市でも広げ、市民主導のマイクロライブラリーを岐阜市でも育てていくきっかけとして、全国各地で「まちライブラリー」を広める活動を精力的に行っている磯井純充氏を招き、講演会を行う。

#### ○内 容

主として磯井氏の講演であったが、講演の始まりと終わりに館長が聞き役となり磯井氏の話聞く時間を設けた。まちづくりに従事し、本で人をつなげる活動をしている磯井氏の話とあって、近隣の店主や市議会議員、まちライブラリー立ち上げを目指している学生など、非常に熱心な参加者が集まった。そのため質疑応答の時間が大変盛り上がり、実際に本によるまちづくりや人が集まる場をつくるための具体的な質問が参加者から次々と上がっていた。磯井氏がまちライブラリーを立ち上げるに至ったきっかけや全国のまちライブラリーの事例の紹介、またこうした人の輪を広げていくための方法論など充実した講演となった。

#### ○今後に向けて

中央図書館は、まちなかの図書館であり、まちと連携して互いに盛り上げていくことが肝要である。こうした講演会などを通して商店街を刺激していくことで、岐阜市版まちライブラリーの発信源となり得ると感じた。参加者からは「個々の力がつながることで、大きな場を作ることができるという話に感銘を受けた」との声も上がっており、これをきっかけに小さな動きが始まることを期待したい。このイベント参加者が、他都市でまちライブラリーを実際に始めたという情報も入っており非常に有意義なイベントとなった。



「まちライブラリー」とは病院やお寺やカフェなど、まちかどに本棚を置いてみんなで本を持ち寄り、小さな図書館をつくる試み。本には感想カードがついていて、それがどんどん繋がっていき、人の輪が出来上がっていく仕組み。

#### ⑥としょこん！～草食系のためのナイトライブラリー～※肉食系も可

開催：2月12日（金） 中央図書館開架エリア（閉館後）

参加者：23人（男性12人、女性11人）

## ○趣 旨

図書館を舞台に未婚の男女が出会いを求めて婚活を行う「としょこん」をバレンタインの時期に合わせて行った。これまで図書館ではあまり行われてこなかったものと思われるが、より直接的に本を媒介として人をつなげる取り組みとして中央図書館で実施する。

## ○内 容

閉館後の夜の図書館の中央スペースにテーブルを設け、男女が向かい合う形で会場を設営した。初めに好きな本のジャンルや作家なども記載したプロフィールカードをもとに、1対1で自己紹介を行った。全員の自己紹介が終わったら4人グループに分かれ、グループ内で各自持参した本を使ってブックトークを行った。次に6人グループに分かれ、それぞれのグループで「結婚・恋愛」をテーマとした本を図書館内から探し出し、おすすめコメントを添えたPOPを作成、実際に展示してみた。最後に展示された本を見ながらフリートークの時間を設け、それぞれ連絡先の交換なども行われていた。また、イベントで作成したPOPと本はエントランスで展示をした。

## ○今後に向けて

経験者もおらず、他都市の事例もほとんどない中で、岐阜県で行われている他業種の婚活イベントの事例や岐阜県のコンサポ・ぎふサポートセンターのアドバイスも参考にしながら実施にこぎつけることができた。そのような中でも意外に反響が大きく、キャンセル待ちが参加人数を上回るほどの申込があり婚活イベントへの需要の高さを感じた。本の話で男女が大いに盛り上がる様子に本の持つ力を感じた。参加者からは「本を通して自然に話ができて良かった」「夜の図書館は新鮮」など、概ね好意的に受け入れられたと感じた。少子化対策の一助にもなり、人と人がつながることができる図書館として、このイベントを恒例イベントとすることも視野に入れたい。



## ⑦みんなのライブラリー —みんなでおいてみま書架—

### ○趣 旨

公共図書館の中に司書が並べた本ではなく、市民がおすすめの本を並べる場所として中央図書館展示グローブの「みんなのライブラリー —みんなでおいてみま書架—」を設置した。市民交流、市民参画の場とするため実施している。

### ○内 容

ぎふメディアコスモス市民ワークショップにて、中央図書館開館に合わせ「メディアコスモス1Fだけでなく図書館のエリアでもなにかやりたい」という声があがり、中央図書館展示グローブを提供することになった。ワークショップに参加していた店主や大学教授など様々な職業の市民が、それぞれのおすすめ本を自分のプロフィールも添えて紹介した。イラストレーター参加者もあり、タイトルロゴも自分たちで作成し飾りつけも行った。

その後は図書館に立ち寄った人がおすすめ本カードを書き数を増やしていった。様々な人がかかわっていることから、小説や実用書など展示される本も多岐に及び、興味深く見ている利用者の姿も多くみられた。

### ○今後に向けて

展示グローブの中央はこれをきっかけとし市民交流、市民参画の象徴、拠点として利用していくこととする。今年度は市民による本の紹介にとどまるが、今後市民自身が考え有効活用していくような場として発展させるため知恵を絞っていきたい。



#### (4) ビジネス支援

図書館におけるビジネス支援は、特に中小企業向け情報基盤として果たす役割が大きい。中央図書館は、本館から複合施設に移転したことにより立ち寄りやすい滞在型図書館を目指しており、図書や経済誌、雑誌などの従来型の情報媒体にとどまらず、データベースや市の商工観光部と連携した相談窓口の設置など総合的なビジネス情報の提供による幅広い支援を目指している。

また、分館は市の基幹産業であるアパレルを扱う企業が集中する地域に近いことと、県の玄関口ともいえる駅と結びついた立地にあるという利便性からファッションライブラリーを設置し、ファッション業界に特化したビジネス情報を提供することに力をいれている。

##### ① ビジネス支援セミナー・相談窓口・展示

###### ○趣 旨

幅広いニーズを持った利用者が足を運ぶ図書館において、起業家を発掘する目的で、ビジネス支援セミナーや相談会を実施する。また、他の部署や機関との連携により通年で取り組むことで、セミナーや相談会、補助金などの情報提供をより充実させ、図書館におけるビジネス支援事業の定着に努める。

###### ○内 容

###### 【ビジネス支援セミナー】

平成27年度は、従来から実施していた創業を目指す人向けの「創業支援セミナー」に加え、起業後に必要となるであろう人材育成や雇用についてのセミナーを初めて開催した。とくに7月に実施した創業支援セミナーの第2回では、何から準備すればよいのかわからない人向けに、中央図書館で新たにはじまる定期相談窓口PRも兼ねて、よろず支援拠点のコーディネーターらによる公的機関の助成についての案内を実施した。

###### i. 創業支援セミナー「図書館からはじめよう 起業・創業はじめの一歩」

開 催：7月1日、2日、8日、9日 ハートフルスクエアG 2階 研修室50

	日 時	タイトル	講 師	参加者
第1回	7月1日(水)	夢への成長—自ら驚き・面白く I 起業の心構え・自分の強み・顧客視点	創業支援ルーム インキュベーション マネージャー 東山 文夫 氏	12人
第2回	7月2日(木)	夢への成長—自ら驚き・面白く II 事業計画書の作成の考え方		12人
第3回	7月8日(水)	もし税理士がドラッカーの 「マネジメント」を読んだら	高木会計事務所 高木 勢生 氏	11人
第4回	7月9日(木)	起業はマーケティングから始めよう		10人

###### ii. ビジネス支援セミナー「図書館で見つけよう 起業成功への道」

開 催：3月7日、9日、11日 ぎふメディアコスモス あつまるスタジオ

	日 時	タイトル	講 師	参加者
第1回	3月7日(月)	採用する際の必要なステップとは？ ～事業アピールと面接の関係を知る～	NPO法人 起業家支援ネット 梁川 正 氏	13人
第2回	3月9日(水)	失敗しない人材育成のポイントとは？ ～ベンチャー企業の歩み方～		13人
第3回	3月11日(金)	社員を採用したら行うことは？ ～労務管理のここがポイント～	NPO法人 起業家支援ネット 藤澤 透 氏	4人

### 【ビジネス支援相談窓口】

中央図書館の開館に伴う事業拡大として、よろず支援拠点のコーディネーター及びサブコーディネーター及び司書がレファレンスカウンターでビジネス相談の対応をする「ビジネスチャレンジ支援相談窓口」を、産業雇用課が中心となって8月から毎週木曜日設置した。さらに平日の年1回実施であった日本政策金融公庫担当者による相談会を年4回に拡大し、土曜日の午前に時間を変更して実施した。

#### i. ビジネスチャレンジ支援相談窓口

場 所：中央図書館レファレンスカウンター  
時 間：平成27年8月6日～3月31日 のべ33日  
毎週木曜日午後2時～7時30分（受付）  
件 数：延173件

#### ii. 資金相談会

場 所：分館 ミーティングルーム  
日 時：11月21日、12月19日、1月30日、2月20日  
いずれも午前10時～・11時～ の1日2件予約制  
相談員：日本政策金融公庫 国民生活事業融資第二課長  
件 数：延4件

### 【展示】

中央図書館展示グローブの一角とその向かいに位置する書架にビジネス支援コーナーを常設し、概ね3か月ごとに紹介テーマと資料の入れ替えを行った。紹介するテーマは、図書館が実施するセミナーや図書館外で行われる行事にあわせて設定した。

テーマ	期 間	内 容
創業関連本の展示 岐阜市での暮らし方	7月18日～ 9月28日	中央図書館が行うビジネス支援事業としてセミナーや相談会、情報リスト、コーナーの設置を紹介したほか、中小企業のビジネス支援を行う公的機関を案内する展示を行った。
農業支援関連本の展示	9月30日～ 12月28日	岐阜市農林園芸課の協力を得て平成26年度新規就農者3名にインタビューを実施し、行政の農業支援の取り組みを紹介。 また、岐阜の農産物を用いた6次産業を紹介するため、商品やパッケージを展示した。
確定申告ってなに??	12月30日～ 2月22日	岐阜北税務署の協力を得て、確定申告の種類と流れを解説するとともに、ふるさと納税の仕組みを紹介。また、中央図書館で実施している相談窓口の紹介として、サブコーディネーターのコラムや相談事例を掲示した。
BLACK&WHITE 安心して下さい！ 労働環境は、変えられますよ！?	2月24日～ 5月30日	就職活動の開始時期にあわせ、新スケジュールや館長をはじめとする3人の職歴などをインタビューで紹介する「私の歩んだ道」を作成。 また、岐阜市男女共生・生きがい推進課が選定する「ともに輝くキラリ大賞」を受賞した平成27年度優良企業の紹介により、働きやすい職場環境について考える展示をおこなった。

## ○今後に向けて

ビジネスチャレンジ支援相談窓口では、相談を司書と一緒に聞くことで内容に合わせた資料紹介を行えるほか、相談者のニーズを直接聞き取ることで必要な図書の見つけに生かすことが出来るようになった。今後も市民のニーズに応えられる図書館をめざし、選書のみでなくセミナーやブックリスト作りに役立てていく。



## ②データベース

### ○趣 旨

情報更新の速さや検索のしやすさなどの点でビジネスに有効なコンテンツとして、インターネットコーナーの一部にオンラインデータベースを使用できる席を設けている。データベース席は最長1時間を限度に調査、印刷が可能である。

また、利用者の関心が高い問題を取りあげて講演とデータベースの操作方法、活用方法を説明する講座を開催し、中央図書館の開館にあわせて提供を開始したデータベースの活用促進を行う。

### ○内 容

#### 【オンラインデータベース一覧】

分 野	データベース名	ログイン数	検索実績回数	備考
新 聞	中日新聞・東京新聞 記事データベース	152	3384	検索実績回数は「見出し」、「本文」の合計数
新 聞	聞蔵Ⅱ	308	3685	検索実績回数は「見出し」、「本文」の合計数
新 聞	岐阜新聞	—	—	アクセス数等は抽出困難
ビジネス	市場情報評価ナビ (検索範囲：岐阜県・ 愛知県)	110	107	検索実績回数は「ダウンロード数」平成 27年度の検索範囲は岐阜県のみ導入
ビジネス	日経テレコン21	—	2965	検索実績回数は「見出し」、「本文」の合計数
法 律	D1-Law.com	103	—	検索実績回数は抽出困難
行 政	官報検索情報サービス	—	—	アクセス数等は抽出困難
他	ナクソスミュージック ライブラリー	1700	169,440 (分)	検索実績回数は「累計貸出時間」 (分館の利用を含む)

#### 【データベース活用講座】

「知っておきたい！労働時間管理と残業代請求+図書館で使える法律・判例情報データベース『D1-Law.com』」

開 催：11月18日（水） ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

参加者：13人

講 師：第一部 「労働時間管理と残業代請求」 尾高 健太郎 氏（弁護士）

第二部 「D1-Law.comガイダンス」 岡 直人 氏（第一法規株式会社）

講座は二部編成で行い、第一部では雇用者と被雇用者双方の視点から、労働時間の規定や残業代の計算・請求方法を中心とした講演を行った。関連法規の説明だけでなく、実際の判例や岐阜労働局から発行されている残業代（割増賃金）発生の実態など具体例も多く、参加者は熱心にメモを取っていた。

第二部は法律・判例情報データベース「D1-Law.com」の操作方法、活用方法の講演で、第一部で登場した言葉（「時間外労働」「普通解雇」など）から、関連法規や判例を検索する方法などが取り上げられていた。講演のほかに、ビジネス支援として作成した「岐阜市立図書館 ビジネス支援情報リスト」を配布するとともに、特に労務問題に関連した本の展示も行った。

データベースの操作や活用方法だけに特化せず、近年社会問題にもなっている残業代の不払いや労務管理についての法律知識を知る講演と組み合わせたことで、参加者を確保することができた。アンケー

ト結果からも、データベースを知っていた参加者は少なく、利用する具体例を提示する講座にすることが必要であるとわかった。

#### ○今後に向けて

新聞などの素早い記事検索が可能なほか、事業者や労働者が抱える課題を解決するのに有効なデータベースだが、使い方を説明するだけでは十分にその有効性が理解されず、利用も限られている状況にある。具体的な事例を取り上げた講演と組み合わせた活用術講座を今後も開催し、利用拡大を図る。



### ③ファッション事業

#### ○趣 旨

岐阜市の主要産業の一つである「アパレル」の振興をはかるべく、まず市民の方々に興味を持ってもらおうと、ファッションやデザインに関する資料を中心に集めた専門図書館「ファッションライブラリー」を分館に併設している。また、中央図書館にも服飾を中心とするファッションやアイテムに関連する資料を提供するファッションコーナーを設けた。

#### ○内 容

##### 【分館ファッションライブラリー展示内容】

分館では、市立女子短期大学や市内の大学・専門学校と連携し、ファッションやデザイン等をテーマに展示を行った。

	場 所	ライブラリー内フロア展示内容	担 当
4月	フロア	フェルト帽子展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
	ショーウィンドウ	岐阜市立女子短期大学 作品展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
5月 前半	フロア	自由に羽撃く	Les Amis du Soleil (岐阜市立女子短期大学 ファッションデザイン研究室 卒業生によるグループ)
	ショーウィンドウ		
5月 後半	フロア	岐阜市立女子短期大学 建築・インテリアデザイン専修2014年度卒業作品	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
	ショーウィンドウ	岐阜市立女子短期大学 作品展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
6月 前半	フロア	『身近にできるブックデザイン展』	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
	ショーウィンドウ	岐阜市立女子短期大学 作品展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
6月 後半	フロア	『わかりやすく伝える -情報デザインとイラストレーション-』	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
	ショーウィンドウ	岐阜市立女子短期大学 作品展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
7月	フロア	『ミニチュア織機によるデザイン織り』	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
	ショーウィンドウ	岐阜市立女子短期大学 作品展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科

9月	フロア	『生活の中のグラフィックデザイン 2015』展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
	ショーウィンドウ	岐阜市立女子短期大学 作品展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
10月	フロア	『学生によるオリジナルブランド企画』展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
	ショーウィンドウ	岐阜市立女子短期大学 作品展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
11月	フロア	『岐阜市のまちづくりを考える』展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
	ショーウィンドウ	岐阜市立女子短期大学 作品展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
12月 前半	フロア	岐阜市専門学校コレクション展	コロムビア・ファッションカレッジ 飯原服装専門学校
	ショーウィンドウ		
12月 後半	フロア	花からのファッションエッセンス	KUKO TAJIMI (Public-Garden Kumins 代表)
	ショーウィンドウ		
2月	フロア	テニテオン (n乗) ー緑あふれる未来の金華橋通りー 展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科
	ショーウィンドウ	岐阜市立女子短期大学 作品展	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科

### 【中央図書館展示】

ファッションコーナーにおいて、岐阜市とその近郊で活躍するハンドメイド作家や企業26件を紹介した。また10月20日（火）～30日（金）1階本の蔵において、岐阜女子大学による「岐阜女子大学伝統文化縫製コンテスト」作品展を行い、「祭礼」をテーマに日本の伝統的技術を用いて高校生がデザイン、製作した作品20点と、伝統的縫製を扱った資料の展示を行った。

### 【分館生活デザイン講座】

岐阜市内の大学、専門学校、高等学校の先生を講師に迎え、ファッションや生活デザインに係るワークショップをファッションライブラリーやハートフルスクエアG工作室等で開催した。

開催日	企画内容	講師	参加人数
4月18日	羊毛でアートなフェルト帽子をつくる ワークショップXII	村上 真知子 氏 (岐阜市立女子短期大学 教授)	20人
5月16日	ストローで強い橋を造ってみよう ー橋のしくみを楽しく学ぶー	服部 宏己 氏 (岐阜市立女子短期大学 教授)	11人
6月6日	オリジナルのスケッチブックを作ろう	奥村 和則 氏 (岐阜市立女子短期大学 准教授)	12人
6月27日	シルクスクリーンでオリジナルバッグを作ろう	坂本 牧葉 氏 (岐阜市立女子短期大学 専任講師)	13人

9月5日	ミサンガを作ってみよう	太田 幸一 氏 (岐阜市立女子短期大学 准教授)	24人
9月19日	ポップアップカードをつくろう2015	小川 直茂 氏 (岐阜市立女子短期大学 准教授)	13人
10月17日	オーガニックコットンで クリスマスオーナメントを作ろう	平川 すみ子 氏 (岐阜市立女子短期大学 准教授)	18人
11月7日	岐阜市のまちづくりを考えよう	柳田 良造 氏 (岐阜市立女子短期大学 教授)	4人
12月12日	手縫いでドレープベストを作りましょう	豊吉 昭子 氏 (飯原服装専門学校 教諭)	15人
1月16日	デコスウィーツマグネットを作ろう	岐阜県立岐阜城北高等学校 生活文化科	24人
1月16日	とびだすポップカードを作ろう	岐阜県立岐阜城北高等学校 生活文化科	24人
1月24日	リボンでつくるブローチ	岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科	20人
2月13日	テニテオ n (n乗) 未来の緑あふれる金華橋通りを描いてみよう まちあるき・模型・スケッチのワークショップ	畑中 久美子 氏 (岐阜市立女子短期大学 講師)	17人



### ○今後に向けて

中央図書館においてもファッションコーナーを設けたことで、先行して資料収集や講座・イベントを行ってきた分館との違いをどのように出すかが課題である。分館では市内の大学や専門学校などとの連携に力を入れてきた実績がある一方、中央図書館ではビジネス支援相談窓口を定期的に設けるなどしていることから、事業者への支援に力を入れていくことが考えられる。

## (5) 図書館の利用促進事業

### ①多文化事業

【英語多読入門講座 ～多読の世界に飛び込もう～】

開催：11月29日（日） ぎふメディアコスモス かんがえるスタジオ

参加者：75人

講師：西澤 一 氏（豊田工業高等専門学校教授）

### ○趣 旨

岐阜市立図書館では中央図書館開館を機に多読資料を導入した。世界的に使用され、もっとも普及している言語である英語を身に付けることで、今までとは異なる価値観に触れ、視野が広がり、行動の選択肢が広がると考え、英語に関心を持ってもらおうと考えたからである。多読とは単語・文章の理解を

前提とせず、英文をたくさん読むことで英語を習得する学習方法である。多読という学習方法を紹介するとともに岐阜市立図書館が所蔵する多読資料を利用してもらうため、初めて英語多読入門講座を開催する。

### ○内 容

多読とは、多読三原則「辞書は引かない、分からない所は飛ばす、飽きたらやめる」に従い、ごく簡単な英文から始め、ひたすら英文を読んでいくと、ある段階から英語が理解できるようになる英語の習得法をいう。多読を知らない人、知っているがやり方が分からない人、すでに多読に取り組んでいる人、伸び悩んでいる人など様々な立場の人が参加した。

入門講座ということで、岐阜市立中央図書館の多読資料を使い、100万語までの道のりが示された。多読のやり方、効果、各シリーズの特徴等を詳しく、また笑いを交えながら講義は進み、英語学習の講座とは思えない楽しい講座となった。参加者はメモを取りながら熱心に話を聞き、講座修了後、多くの参加者が多読資料を借りていく姿が見られた。

### ○今後に向けて

「多読」は新しい分野の英語習得法であるが、その学習には大量の本が必要になる。これを個人が購入することは困難であり、「多読」による英語習得は公共図書館が担う部分が多い。語彙や文法を学び英文を日本語訳し理解を進める学校の学習方法とは全く違う方法での英語習得サポートとして、「多読」資料の収集や当該講座、学習中の方を対象としたフォローアップ講座のような事業を今後も継続していく。



### 【英語でおはなし会】

開 催：2月28日（日） 岐阜市立中央図書館 おはなしのへや

英語協力：堀 素子 氏

参 加 者：51人（内大人24人、子供27人）

### ○趣 旨

外国語に興味を持ってもらうため、また、岐阜市立図書館が所蔵する外国語の絵本を紹介し、図書館でも外国語に触れる機会があることを知ってもらうため、初めての試みとして「英語でおはなし会」を開催する。

### ○内 容

手遊びと読み聞かせ、簡単なゲームを英語と日本語で行った。手遊びと読み聞かせは日本語、英語の順に行った。先に日本語で読んだことで、話の内容が分かり、みんな真剣に聞いていた。ゲームは絵本の英語タイトルを読み、日本語のタイトルを当てるといったものを行った。最初は絵本の表紙を画用紙で隠し、子供の反応を見ながら少しずつヒントを出していく。表紙を見てからタイトルを答える子もいれば、英語を聞いただけでタイトルを答える子もいる。英語が分かる子も分からない子も積極的に参加しており、楽しいおはなし会となった。おはなし会后、読み聞かせやゲームで使った外国語の絵本を借りていく子や外国語の絵本のある書架を聞く親もいた。



## ○今後に向けて

おはなし会は、子どもたちの興味をひきだし、世界には色々な言葉、文化があるのだということを知ってもらうには良い機会になった。英語だけでなく韓国語の絵本なども所蔵しており、こうした外国語の絵本をきっかけとし、おはなし会だけではなく、広い世界を知ったり、学んだりできるような機会を企画していく。

## ②平成27年度人権イベント「オトナの常識？コドモの非常識？どうつきあう？ケータイ・ネット」

開催：12月6日（日） ぎふメディアコスモス みんなのホール

講師：原 美智子 氏（チャイルドラインぎふ）

木崎 洋 氏（KDDI株式会社）

参加者：15人

### ○趣 旨

図書館ではこれまで12月4日から10日の人権週間に人権イベントを行ってきた。本市では13の人権課題について取り組んでいるが、今回は「子どもの人権」と「情報」をキーワードとしイベントを企画した。スマートフォンやPCの普及により、個人が気軽に情報を発信・取得できるようになったため、「LINEいじめ」や「リベンジポルノ」などが深刻な問題になっている。身近な事例をもとに人権について考え、便利なスマートフォンやPCの使用について、情報リテラシーの向上及びより良い使い方を図書館として提案するイベントを行う。

### ○内 容

第1部は、「インターネットによる人権侵害」を理解するために、もっとも身近に感じているであろうYA世代の子どもたちが抱えている問題について、チャイルドライン（18歳までの子ども専用相談ダイヤル）に長年かかわっている原美智子氏が事例を紹介し、子どもの情報リテラシーについて、図書館や大人が考えるべきことなどを吉成館長と対談した。

第2部はKDDIが提供するケータイ教室を実施した。動画などを用いて、ケータイを使う上での問題をわかりやすく解説した。

参加者には第1部で問題を提起し、第2部で実際にケータイを使用した場合のイメージを膨らませてもらった。YAの保護者世代も多く、自分がYAだった頃とはまったく違った悩みや問題などがあると気づいたなどの意見もあり、子どもの人権についてもっと考える機会が欲しいと要望もあった。

イベントにあわせて、11月25日（水）から12月30日（水）まで、図書館展示グローブにて「SNSってなに？そんなにいいもの？ーとある高校生とその母親の葛藤ー」と題し、とある母子のケータイのある日常を題材にした展示をするとともに、SNSの知識の本やテーマになっている本などの展示を行った。

## ○今後に向けて

今回のイベントは広報が不十分で、参加者が集めきれなかったことは反省事項である。広報、情報発信方法についても注力していきたい。

## ③障がい者関連事業

### ○趣 旨

図書館の利用に障がいのある方が快適に図書館を利用してもらえよう、以下のサービスを行う。

### ○内 容

#### <郵送貸出サービス>

来館が困難な利用者へ図書館資料を月に1回、定期的に郵送で貸出する。

#### <図書館資料音声化サービス>

活字資料の利用が困難な利用者に対して録音資料の貸出を行う。また、音訳資料製作協力者や職員が図書館の本や雑誌を音読し、視覚障がい者等の読書のお手伝いをする対面読書を実施する。

#### <点訳・音訳資料制作協力者の養成>

点訳・音訳講習会を実施し、点訳資料製作協力者・音訳資料製作協力者を育成。協力者により図書館が所蔵する活字資料を点訳、または、音訳し、点字資料と録音資料を作成している。

## <その他>

点字資料、障がい者支援資料（さわる絵本、布の絵本、療育関係の本、支援者のための本）、大活字資料の貸出や拡大読書器、磁気誘導ループ、障がい者用パソコン、点字ブロックの設置をしている。

### ○今後に向けて

図書館からの情報発信が十分でない上に、利用可能な資料も十分ではないこともあり、限られた人しか利用されていない。まずは、資料の充実を図るため、協力者による資料作成、関連図書の購入、サピエ（目で文字を読むことが困難な人を対象にさまざまな情報を点字・音声データで提供するネットワーク）の活用を努める。また、利用についてどのような広報活動をしていくか検討し発信する。

## ④みんなの図書館シアター

### ○趣 旨

中央図書館でDVDやCDなどの視聴覚資料を提供するようになったことから、図書館が所蔵する視聴覚資料のうち上映が可能な資料を用いて、上映会を実施した。上映する映画の関連書籍を展示・紹介したりすることで、視聴覚資料のみならず多岐にわたる資料の利用促進を図る。

### ○内 容

#### 【第1回】

「命のビザ」1992年 日本 約115分

開 催：11月7日（土） ぎふメディアコスモス みんなのホール

参加者：109人

岐阜県出身で世界記憶遺産候補となった杉原千畝氏をとりあげ、杉原氏や第二次世界大戦を題材にした図書館資料のリスト、八百津町にある杉原千畝記念館のチラシを配布した。ホール外では、図書館資料のほか、杉原千畝関連の新聞記事の展示を行った。12月に杉原氏を題材にした新作映画が公開されることもあり、注目された。

#### 【第2回】

「ライラの冒険」2007年 アメリカ 約113分 吹替版

開 催：2月11日（木） ぎふメディアコスモス みんなのホール

参加者：55人

祝日に実施したため、児童向けの作品を上映し、「ライラの冒険」と同じく冒険ファンタジーを題材にした図書館資料のリストを配布した。ホール内で図書館資料のリストの現物の展示を行ったため、待ち時間の間に手に取る利用者が多かった。

### ○今後に向けて

今年度は2回の開催となったが、今後は年4回を目途に行う予定である。上映可能な作品を購入するにあたり、原作がある作品を選ぶなど広い活用の可能性を模索していく必要がある。

## ⑤長良川大学講座

### 【平家物語～源平古戦場の今と昔～】

開 催：9月10日、24日、10月8日、22日、11月19日、26日 全て木曜日

ぎふメディアコスモス みんなのホール

参加者：842名（全6回分）

講 師：三木 秀生 氏（中部学院大学講師）

### ○趣 旨

岐阜の地域に関わる文学・古典の紹介を通じて、文学作品への造詣を深めてもらうとともに図書館利用へ繋げる講座として開催している。今回で8回目となる「平家物語」の講座は毎年多くの方が参加する講座となっている。講師の三木秀生氏により、主に「平家物語」に登場する人物に焦点をあてた講演をしてきたが、平成27年度は参加者に新たな視点で「平家物語」に触れてもらうため、物語に登場する合戦場に焦点をあてた講演を行う。

### ○内 容

全6回の講座で「富士川」「倶利伽羅峠」「宇治川」「一の谷」「屋島」「壇の浦」の6か所の合戦場を

1か所ずつ取り上げ、「平家物語」の各合戦場が登場する箇所を原文をテキストにして、合戦の様子や語句の意味を平易な内容に言い換えた解説と、合戦場の今の様子などについて講師自身が現地を訪れた経験談を交えながらの講義であった。「平家物語」の講座を楽しみにしている参加者が多く、「わかりやすい」「楽しい内容」など好評だった。

また、開催日初日には、「平家物語」の世界を、目からだけではなく耳からも感じてもらおうと、「文学ライブ」として琵琶奏者の宮下旭菖氏を招いて「壇ノ浦悲曲」の演奏会を行った。参加者から「琵琶の音色に癒されていた」「平家物語の世界に引き込まれた一時となった」などの意見が聞かれた。「平家物語」の講座に合わせて琵琶演奏を開催しているが、なかなか普段目にする機会のない楽器演奏のため、市民にとって貴重な機会だといえる。

さらに、講座の開催に合わせて、8月26日（水）から11月23日（月）まで図書館展示グローブにおいて講座で取り上げた平家物語の登場人物や合戦場の紹介、年表のほか、関連本の展示などを行った。

#### ○今後に向けて

平成28年度は「平家物語」から離れ、岐阜においてどのような文学が生まれてきたのかを地域の方々に再発見してもらうため、「岐阜を舞台にした文学—岐阜を訪れた作家たち—」というテーマを5人の講師により講義する予定である。今後も岐阜にゆかりのある文学に興味を持ってもらえるよう魅力ある講座を提供する。



#### 【朗読教室 朗読を楽しもう】

開催：1月12日、19日、2月2日、9日、16日、3月1日 全て火曜日

ぎふメディアコスモス おどるスタジオ

参加者：84名（全6回分）

講師：前田 幸子 氏（フリーアナウンサー）

#### ○趣 旨

声に出して文章を読む朗読の魅力を感じ、また朗読を身近に感じるとともに、朗読の魅力を社会に広める人を養成する講座である。長良川大学講座として開講する以前から開催をしていた。朗読講座受講後に朗読サークルを立ち上げて、朗読を通じた読書活動をされている方も多い。

#### ○内 容

「朗読教室」の講師にはフリーアナウンサーの前田幸子氏を招いた。「朗読教室」は近年、前田氏より指導を受けているが、前田氏の指導法や講評については参加者から好評である。全6回の講座で、初回は朗読の読み方を練習するとともに今回テキストとして扱う『伊豆の踊子』を参加者全員で読み、朗読の雰囲気味わう。続いて2・3回目には発声練習の後、個々の朗読を録音して前田氏より改善点などの指摘を受けた。4・5回目はグループによる朗読を行い、最終回に発表会を開催した。発表会でも同様に録音を行い、「朗読教室」終了後に希望者には参加者自身の朗読を収録した音源を配布した。

アンケート結果では朗読に興味をもって参加した人、あるいは以前に朗読教室に参加し再び朗読を試みたいと希望した人など、参加動機は多様だったが次回の参加を希望する人が多数いた。

#### ○今後に向けて

文学の楽しみ方の一つである朗読が「朗読教室」の開催により普及し、読書活動の普及、発展に寄与している。しかしながら、参加者が限定されていることから、今後は話題の作品を題材にして朗読するなど新たな人が参加したくなるような方法を検討し、参加者層の底辺拡大を図っていく。



## 【読み聞かせ教室】

開催：3月4日、11日（金）

ぎふメディアコスモス あつまるスタジオ、おはなしのへや、親子のグローブ

参加者：54人（全2回分）

講師：杉山 喜美恵 氏（東海学院大学短期大学部教授）

### ○趣 旨

図書館や家庭でも行われている読み聞かせについて、子どもの成長過程における読み聞かせの重要性、読み聞かせの本を選ぶコツを理解してもらい、その上で家庭において読み聞かせを実践してもらうために開講している。「朗読教室」同様、長良川大学講座を開講する以前から開催をしていた講座である。講座の受付を開始すると定員がすぐに埋まるほどの人気講座である。

### ○内 容

講師に東海学院大学短期大学部教授の杉山喜美恵氏を招き、初回は絵本の選び方や読み聞かせの方法についての講義で、2回目は参加者が読み聞かせを実践する講座である。子ども同伴での参加で、実践の場では子どもと一緒に絵本を選んでもらい、さらに図書館が開催している読み聞かせの会場となっているおはなしのへやで行ったこともあって、子どもたちはくつろぎながら参加することができた。

今回子どもたちが0～1歳児という参加者が多数おり、家庭で読み聞かせを実践しようとしても、どの絵本を読んだらいいのか、またどういった絵本が自分の子どもの年齢に適した絵本なのか、といった悩みを抱えているようで、そうした悩みを解決できる場として、あるいは他の参加者が選んだ本から色々気づかされる場として有意義な場になった、といった意見をアンケートでもらった。

### ○今後に向けて

家庭で読み聞かせをするにあたり、悩みをもつ親は多い。読み聞かせの実践を通じて悩みを解消する場として、さらには図書館が家庭での読書活動に寄与する機会として、「読み聞かせ教室」は貴重な場となっている。これからも子どもの読書推進の一環として、また、本を通して家庭と図書館をつなぐ活動の一つとして講座を継続していく。



### ○まとめ

「長良川大学講座」は岐阜市や関連施設が主催する生涯学習講座である。中央図書館では文学に係わる学びの場を提供するため3講座を開催している。今後も「知の拠点」として、文学を通して学ぶことが楽しめるよう、魅力ある講座を展開していく。

## ⑥文学ライブ（分館）

### 【日本刀の魅力～時代をこえて愛される刀剣～】

開催：12月5日（土） ハートフルスクエア-G 2階 中研修室

講師：三山 らさ 氏（岐阜市歴史博物館学芸員）

参加者：46人

### ○趣 旨

岐阜関連の所蔵資料を紹介するため、「文学のまち「岐阜」事業」の一環として、主に若い世代を対象に岐阜ゆかりの文学や岐阜にまつわる文化に関する情報発信を進める講座を分館において開催している。

### ○内 容

講演の前半は、初心者向けに日本刀の概要について説明する。その中の「刀造りの工程」ではプロジェクターを使い、実際に刀匠が刀を鍛錬・製作している様子を映像で紹介し、参加者は三山氏が解説された内容を目と耳で感じる事ができた。

後半では、「美濃の刀」「信長の刀」など岐阜にまつわる刀の内容で、「宗三左文字」「圧切長谷部」など数多くの名刀を所有していた信長と刀との関わりについて、参加者も興味深く三山氏の話聞いていた。

また講演に合わせて日本刀に関する豆知識や名刀の紹介のほか、刀剣関連の所蔵資料などの展示を行った。

## ○今後に向けて

ゲームからブームが生まれて若い女性を中心に関心が生まれている刀剣と、それにまつわる岐阜の刀剣文化についての講座であったため、講座の参加対象として想定していた若い世代が参加者の中にも数多くいたことから、図書館利用が少ない若い世代を呼び込むという一定の目的は達せられたといえる。図書館利用に繋げるために、引き続き若い世代が図書館に興味をもつような内容の講座を開催していく。



## ⑦自分史講座

日 時：2月13日（土） ぎふメディアコスモス おどるスタジオ

参加者：21人

講 師：加藤 迪男 氏（日本自分史学会スーパーバイザー）

### ○趣 旨

シニア世代を中心に、全国的に見られる自分史づくりに対する意識の高まりを受け、自分史に対する市民のさらなる意識向上や、自分史制作のきっかけづくり、そして将来的に自分史制作に繋がってもらえることを目的として開催する。

### ○内 容

自分史とは何か、という素朴な疑問から、自分の歴史を振り返る意味、自分史づくりに見られるテーマの傾向など、主に自分史初心者の人を対象に平易な内容の講座を行った。

自分の歴史を振り返ることは難しい、あるいは思い出すのに苦労する、ということもあるが、自分史には形式などはなく、日々食べたものや旅行先の出来事など普段の暮らしを日記のように綴り、最終的に蓄積したものが自分史になるので、あまり畏まらずに自分史づくりに気軽に取り組んでもらいたい、という講義内容であった。また、自分史のテーマとして、最近は介護体験や闘病体験などを取り上げる人が多いという特徴があげられた。

アンケート結果をみると、親類あるいは身内、知人など自身にとって身近な人に向けて1冊だけ自分史を作りたいという意見が多く、「自分史を書いていて1冊の本にするのは難しいと思ったが、今回の内容を聞いて再び書いてみようと思った」「自分とは何？というのを見つめなおすために自分史がちょうど良いと思った」といった感想があった。



## ○今後に向けて

どことなく固く難しいイメージがある自分史について、より理解を深めて身近なものに感じられ、自分史制作の機運を高め市民レベルで普及するような講座の開催を、「市民に寄り添う図書館」として引き続き検討していく。

## ⑧都市間連携

### ○趣 旨

岐阜市では友好姉妹都市の図書館との文化交流を目的に、図書の寄贈、交換や職員交流の推進、イベントなどを通じた文化交流の促進を進めている。

○内 容

・中国杭州図書館

杭州市解放東路58号 市民センターJ楼  
延床面積43,860㎡ 蔵書数約430万冊  
平成27年 岐阜市立図書館・杭州図書館友好交流協定書を締結



・富山市立図書館

富山市西町5番1号(本館) TOYAMAキラリ  
面積 図書館専用部分 約4,500㎡ 蔵書数約45万冊  
平成19年 岐阜市・富山市都市間交流協定書を締結

○今後に向けて

・中国杭州図書館

平成27年8月に締結した友好交流協定に基づき、両館で、図書の寄贈・交換などの交流や、サービス向上を図るために職員間の相互交流などを推進していき、両図書館の今後の発展につなげていく。

・富山市立図書館

それぞれの図書館の特徴あるイベントや実施事業の紹介、今後の新しい企画などについて、職員間で情報交換及び研究などを行っていく。また、岐阜市で育成している子ども司書を富山市へ派遣し、子どもたちに岐阜市との違いについて学び、図書館に関する理解をさらに深めてもらい、それぞれの学校や子どもラジオなどで情報を発信してもらう。さらには、双方の図書館でそれぞれの都市の観光や文化などを紹介する郷土コーナーを設置するなどしていき、両市の図書館交流を一層進めていく。

⑨絵本といっしょ

○趣 旨

家庭での読み聞かせを始めるきっかけとして、市立図書館では平成15年度より「絵本といっしょ」事業をブックスタートに関連する事業として実施している。

この「絵本といっしょ」事業は、赤ちゃんに絵本を読み聞かせることで、親子がふれあう楽しい時間を持つ機会となるよう開始する。

○内 容

乳幼児に対する取り組みとして、毎月、北、中、南市民健康センターで行われる10ヶ月児健康診査を受診に来られた親子を対象に、読み聞かせの大切さをPRし、赤ちゃん絵本や離乳食などの育児支援の本を貸し出ししている。図書館と市民ボランティアの方々が連携し、“絵本はこころの栄養素”をスローガンに、絵本を介した親子のふれあいをお手伝いしている。

○今後に向けて

赤ちゃんは、お母さんやお父さん、自分を愛してくれる保護者の温かい声で話しかけてもらうことがうれしい。だから10ヶ月の赤ちゃんには、内容が分からない絵本はまだ早いのではないかと、思っている多くの人の、そういった疑問や不安を解消するよう、この事業を通じて「どんどん赤ちゃんに語りかけてください!」と呼びかけ続けていく。破いてしまうのが心配な場合には、厚紙でできたボードブックがあることを知らせたり、色にはとても反応が良いことを伝えたりすると、紹介した本を後で借りていく人もいて、その後の図書館の利用促進に繋がっていくことから、様々な種類の絵本をこれからも準備していく。図書館から多くの本を紹介することで、保護者の方に読み聞かせに興味を持ってもらい、家庭での子どもとのコミュニケーションを深めていく手段となるよう、啓発を進めていきたい。

会 場	開催回数	受診者数	利用登録件数	貸出数	参加ボランティア
中市民健康センター	24回	999人	62人	257冊	45人
南市民健康センター	24回	1010人	113人	493冊	45人
北市民健康センター	24回	1108人	79人	415冊	68人
合 計	72回	3117人	254人	1165冊	158人



## ⑩職場体験

### ○趣 旨

主に中・高生が実際の社会現場を見て、様々な仕事を体験することで、将来の希望や目標を広げたいけることを支援するため、図書館での職場体験を希望する生徒・学生を受け入れている。

### ○内 容

カウンターでの貸出や、返却処理、書架の整理、破損本の修理、バックヤード等の仕事など。図書館での司書の仕事を実際に体験することで、図書館により深く親んでもらうことを目的に進めている。

まずは書架整理を行って多くの本と出会い、書架の美化活動の一環としておすすめ本のポップ作りで本の紹介を試みてもらう。楽しみながら自らのアイデアを出し、それぞれの個性を表現するなどの様子が見られている。職場体験後も図書館を訪れてくれる実習生もおり、司書とのコミュニケーションも深まっている。

### ○今後に向けて

近くの図書室での職場体験希望だけでなく、新しく開館した中央図書館に憧れて職場体験を希望してくる生徒もいることから、これからの担う生徒たちが「こんな司書の仕事は素敵だな、司書になりたい！中央図書館で働きたい！」といった思いを抱いて将来の目標にできるような、体験プログラム作りと指導を行って行きたい。

#### 体験スケジュール例

9：00～	カウンター業務
10：00～	読み聞かせタイムのお手伝い ※おはなし会カードのスタンプ押印・片づけ等
10：30～	書架整理・環境美化
11：30～	カウンター業務
12：00～	お昼休憩
13：00～	おすすめ本のポップ作成（児童書） ※終了次第、書架整理
～16：00	終了

	中央 図書館	分館	長良	東部	西部	長森	柳津	合計
中学生	0	11	0	4	8	4	2	29
高校生	2	3	0	0	2	0	0	7
大学生	0	0	0	0	0	0	0	0
社会人	—	—	—	—	—	—	—	—
合計	2	14	0	4	10	4	2	36

## ⑪読み聞かせボランティア派遣事業

### ○趣 旨

子どもたちが読み聞かせを受けられる機会を増やすために、図書館から飛び出して子どもたちのいる場所で読み聞かせを行う事業である。

### ○内 容

市内の小学校・幼稚園・保育所や地域の子育てグループ等様々な団体から、絵本の読み聞かせの依頼を受け、それぞれの地域へボランティアを派遣しておはなし会を行っている。

### ○今後に向けて

市立図書館の読み聞かせボランティアは、図書館と地域を結びつけ、交流をサポートするとともに、岐阜市が進めている子ども読書活動を推進する役割も担っている。派遣事業を継続させていくためにも、図書館として新しいボランティアの育成や、ボランティアのスキルアップを支援して読み聞かせを浸透させて行きたい。

## ⑫読書推進活動関連展示（図書館 展示グローブ）

タイトル	期 間	内 容
国際アンデルセン賞を受賞した作家たち	9月30日～ 12月30日	国際アンデルセン賞を受賞した作家たちの紹介や作品紹介。他にも雑誌MOEの絵本賞など司書が選んだ各絵本賞を受賞した作品を紹介、展示。岐阜にゆかりの高島那生さんの作品も紹介。
2015年映像化作品	11月25日～ 1月25日	2015年に映像化された作品を季節ごとに紹介。利用者による人気投票を展示期間前半に実施し、後半で結果発表。
岐阜県出身女優菊池亜希子	1月5日～ 1月25日	岐阜県出身の女優である菊池亜希子さんの著作と出演作品を紹介。
館長と司書が選ぶ大切な人に贈りたい1冊	1月27日～ 3月28日	「大切」をキーワードにした展示。館長や司書が選んだ1冊を紹介。大切な図書館の本を長く利用するための修理についても展示。大切な人に贈るメッセージも募集し展示した。
ノーベル文学賞は世界最高峰の文学賞！	1月27日～ 3月28日	ノーベル文学賞や受賞作品を紹介。日本人のノーベル文学賞受賞者・川端康成に関する展示も行う。

## (6) 図書館ボランティア活動

### ○趣 旨

岐阜市立図書館ではボランティアとして活動する市民のみなさんと協働し、図書館運営をしている。

### ○内 容

#### ①一般ボランティア

18歳以上の方対象に、年1回募集を行い、次のような活動を行う。

##### ・書架整理・館内案内

中央図書館および分館、各図書室で返却本を書架に戻したり、乱れた書架を整理整頓したりする。中央図書館では、書架整理の合間に利用者の方からの質問を受け付ける館内案内もしている。

##### ・資料修理

傷んだ本の修理をする。糊による修理を基本に、読みやすく直す修理を目指している。

##### ・環境美化

分館や図書室で館内の飾りつけやインデックスの作成などを行っている。

##### ・読み聞かせ「おはなし会」

中央図書館および分館、各図書室で、子ども達に絵本を楽しんでもらうため、司書とボランティアで読み聞かせの会を開催している。

## ②青少年サポーター（YAサポーター）

中央図書館と分館での中高生を中心としたボランティア活動。中央図書館では随時、分館では夏休み期間のみ受け付けている。

- 書架整理  
中高生向けの本が並ぶYAエリアの棚の整理をする。
- 環境美化  
図書館で勉強をする仲間のために折り紙で消し屑入れを作ったり、おすすめ本のPOPを作成する。  
※中央図書館のみ

## ○今後に向けて

ボランティア活動に参加している人の姿を見ると、生涯学習の一環としてのボランティア活動の場として図書館が役目を果たしていると感じる。みんなの森と名付けられたメディアコスモスに中央図書館があり、これからも市民とつくる図書館をめざし、図書館ボランティアの活動だけでなく、市民と協働していく事に取り組んでいく。

## (7) 中央館展示リスト

### 展示パネル外側

展示タイトル	期 間
メディアコスモス・伊東豊雄について	常設展 7月18日～
直木賞・芥川賞	7月18日～9月28日
岐阜市を歩こう 文学編	7月18日～9月28日
益川名誉館長・吉成館長特集	7月18日～9月28日
ビジネス支援 創業関連本の展示 岐阜市での暮らし方	7月18日～9月28日
岐阜市が誇る！長良川鶴飼	7月18日～9月28日
平家物語	8月26日～11月23日
F C岐阜と一緒に本を読もう！Vol.6	8月26日～9月28日
ビジネス支援 農業支援関連本の展示	9月30日～12月28日
日本遺産「信長公のおもてなし」が息づく戦国城下町・岐阜	9月30日～12月28日
直木賞作家 朝井リョウ	9月30日～11月23日
国際アンデルセン賞を受賞した作家たち	9月30日～12月30日
SNSってなに？そんなにいいもの？ —とある高校生とその母親の葛藤—	11月25日～12月30日
郷土作家 ペンギンとゆく！高畠純さんの世界	11月25日～2月22日
岐阜県出身女優 菊池亜希子 2015年 映画化作品	1月4日～1月25日
ビジネス支援 確定申告ってなに??	12月30日～2月22日
安楽庵策伝 策伝大賞	12月30日～3月28日
館長と司書が選ぶ大切な人に贈りたい一冊	1月27日～3月28日
ノーベル文学賞は世界最高峰の文学賞！	1月27日～3月28日
岐阜出身 池井戸潤の世界	2月24日～3月28日
ビジネス支援 BLACK&WHITE 安心してください！労働環境は、変えられますよ!?	2月24日～5月30日

### 展示パネル外側

展示タイトル	日 時
まちライブラリー —みんなでおいってみま書架—	常設展 7月18日～
中央図書館開館に向けて	7月18日～
中央図書館のこれから	7月18日～

中央図書館の整備計画	7月18日～9月28日
まちの古本屋さん	9月30日～
図書館がこのような紹介されています	9月30日～
菊池亜希子さんとの対談を終えて	11月25日～3月20日
みんなのたからものMAP	2月24日～

#### エントランス展示

展示タイトル	期 間
館長の人生紹介50冊の本	7月18日～9月28日
カンチョーとヒミツのおさんぽ	11月25日～1月25日
としょこん 一草食系ためのナイトライブラリー	2月24日～
RDDin岐阜連携企画 難病図書フェア「知らなかった難病のこと知ってみよう！」	2月24日～3月8日
司書がすすめる木育の本たち	3月9日～3月28日
5回目の3.11に寄せて	3月9日～3月28日
ハンセン病関連本	3月9日～3月17日

#### (8) 今後に向けて

中央図書館が開館したこの一年を終えて、事業を通じてのごたえや成果とともに、今後に向けた中長期的な全体課題も見えてきたので、これについても以下の4点について記す。

- 岐阜らしさをあらかず資料コレクション、デジタルアーカイブの形成に向けた、基本方向の構築とそれに向けた全館的な共通認識づくり
- この地で暮らしてきた人々の生活、文化に目を向け、人々が長い間営んできた生活の中にある知恵（生活知、身振り手振りも含めた身体知、経験知）を積み重ねてきた歴史的な経緯を市民に生き活きとわかりやすく伝える、オープンでひらかれた知の集積をめざす。
- すべての図書館利用者のユーザーアクセサビリティの向上へ向けたきめ細かいサービス対応の実現をめざす
- 中央図書館と分館、各図書室がそれぞれの立地、地域文化的特性を踏まえた運営サービスを実現しながら、相互につながりあうネットワークを築き、全体としてシナジー効果を発揮できる市立図書館をめざす。